HP QuickTest Professional 10.00
最初にお読みください

ソフトウェア・バージョン：10.00
発行日：2009 年 1 月（英語版）

このファイルには，QuickTest Professional 10.00 に関する以下の情報が含まれています。

- 1 ページ「ドキュメントのアップデート」
- 4 ページ「QuickTest Professional 10.00 の新情報」
- 9 ページ「システム要件」
- 11 ページ「サポート対象環境およびプログラム」
- 15 ページ「HP Unified Functional Testing」
- 16 ページ「参考情報」
- 30 ページ「注意事項および制限事項」
- 99 ページ「マルチリンガル・サポート」
- 103 ページ「User Interface Pack のインストール手順」
- 106 ページ「サードパーティ・ライセンスの許諾」
- 106 ページ「HP サポート」
- 108 ページ「法的通知」

ドキュメントのアップデート

この『最初にお読みください』の最初にページには，次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日

最新のアップデートまたは文書の最新版を使用していることを確認するには，次の URL を参照します。

http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトでは，HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は，次の Web サイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

または，［**New users - please register**］リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると，更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

注：PDF 形式（*.pdf）形式のファイルを表示するには，システムに Adobe Reader がインストールされている必要があります。Adobe Reader をダウンロードするには，次の URL にアクセスしてください。www.adobe.com/jp/

QuickTest Professional ドキュメント

- インストールに関する重要情報およびインストールの詳しい手順については，『**HP QuickTest Professional インストール・ガイド**』を参照してください。『**HP QuickTest Professional インストール・ガイド**』は，DVD のルート・フォルダに PDF 形式で格納されています。このファイルは，QuickTest のインストール後は，**＜ QuickTest Professional ヘルプ＞** フォルダにも格納されています。
- QuickTest Professional を初めて使用する場合は，**QuickTest Professional チュートリアル**（［**ヘルプ**］＞［**QuickTest Professional チュートリアル**］）を使って，最もよく使用する機能で作業を行う方法を学習できます。
- **新情報**に関するヘルプ（［**ヘルプ**］＞［**新情報**］）は，QuickTest Professional の本バージョンの新機能とサポートされる環境に関する情報を提供します。

➤ QuickTest Professional の網羅的な情報については **QuickTest Professional ヘルプ**（［**ヘルプ**］＞［**QuickTest Professional ヘルプ**］）を参照してください。この包括的なヘルプ・ウィンドウには，『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』，『**HP QuickTest Professional for Business Process Testing ユーザーズ・ガイド**』，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』，『**HP QuickTest Professional Object Model Reference**』（英語版），オートメーションとスキーマに関するいくつかのリファレンスを含む「**QuickTest Professional Advanced References**」セクション，および『**Microsoft VBScript Reference**』が含まれています。いくつかのガイドは，PDF 形式でも提供されています（［**ヘルプ**］＞［**印刷用ドキュメント**］を選択して開きます）。

ホット・フィックスとパッチに関する情報

QuickTest Professional 10.00 の上にホット・フィックスまたはパッチをインストールした場合，それらに関する情報は，対応するホット・フィックスまたはパッチの readme に記載されています。

コンピュータにインストールされている QuickTest Professional ホット・フィックスおよびパッチを表示するには，QuickTest を開き，［**ヘルプ**］＞［**QuickTest Professional のバージョン情報**］を選択し，［**製品情報**］ボタンをクリックします。インストール済みのホット・フィックスおよびパッチの一覧が［製本情報］ページの下部に表示されます。リンクをクリックすると，ホット・フィックスまたはパッチに対応する readme ファイルが開きます。インストール済みのすべてのホット・フィックスおよびパッチの readme ファイルは，＜ **QuickTest のインストール・フォルダ**＞ **¥HotfixReadmes** フォルダにあります。

ホット・フィックスまたはパッチの readme に含まれている情報が QuickTest Professional Readme または QuickTest Professional のその他のマニュアルに記載されている情報と矛盾する場合，ホット・フィックスまたはパッチの readme に含まれている情報が優先します。

注：使用するコンピュータに，実行可能な Windows Installer 3.1 がインストールされていないと，QuickTest Professional ホット・フィックスおよびパッチのインストールができません。詳細とダウンロードについては，http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=889482FC-5F56-4A38-B838-DE776FD4138C&displaylang=ja を参照してください。

QuickTest Professional 10.00 の新情報

QuickTest Professional 10.00 は，さまざまな新機能，新たな環境への対応および機能強化を提供します。これらの概要を以下に示します。詳細については，新情報に関するヘルプを参照してください（QuickTest で，［**ヘルプ**］＞［**新情報**］を選択します)。

本項では，次の項目について説明します。

➤ 4 ページ「新機能」

➤ 7 ページ「新たにサポートする環境」

➤ 8 ページ「機能強化」

新機能

QuickTest Professional 10.00 では，新たに次の機能が利用できるようになりました。

Quality Center 10.00 によるテスト・アセット，依存関係，バージョンの集中的な管理と共有

QuickTest Professional 10.00 は，**QuickTest** アセット（資産）のための一連の強力な Quality Center 10.00 統合機能を備えています。*****

統合機能には，次のものが含まれています。

➤ 共有アセットの格納と管理のための新しいリソース・モデルと依存関係モデル

➤ アセットのバージョニングとベースラインのサポート

➤ 個別の QuickTest アセットのバージョンを比較するためのアセット比較ツールおよび過去のバージョンの QuickTest アセットを表示するためのアセット・ビュー

➤ これらの新機能が使用できるようにすべての QuickTest アセットをアップグレードする Quality Center 管理者用の特別なツール

*** QuickTest アセット**には，テスト，コンポーネント，アプリケーション領域のほか，共有オブジェクト・リポジトリ，関数ライブラリ，快復シナリオ，外部データ・テーブルなどの関連付けられているリソースが含まれます。

テスト実行時の単一ユーザ・ローカル・システム監視の実施

新しい**ローカル・システム監視機能**（［**ファイル**］＞［**設定**］＞［**ローカル システム モニタ**］）を使って，実行セッション中にテスト対象アプリケーション・インスタンスが使用しているローカル（クライアント側）・コンピュータのリソースを監視できます。

いくつかの異なるシステム・カウンタを監視して，対象アプリケーションがシステムに及ぼす影響を知ることができます。カウンタの上限値を定義することも可能です。指定したカウンタが 1 つでもこれらの上限値を超えると，テスト実行は失敗となります。

さらに，［システム モニタ］タブから，このデータをさまざまな種類のファイルにエクスポートできます。

テストのコピーをそのリソース・ファイルと共に保存することによるポータビリティの向上

ネットワーク・ドライブまたは Quality Center にアクセスできないときにテストを開いたり実行したりする必要がある場合，［**ファイル**］＞［**テストをリソースと保存**］コマンドを使用できます。このコマンドは，テストのスタンドアロンのローカル・コピー，すべての関連付けられたリソース・ファイル，およびテストで呼び出すアクションを保存します。

テスト実行時の動的なアクション呼び出し

新しい **LoadAndRunAction** ステートメントを使用して，ステップの実行時にのみアクションをロードして即時にそのアクションを実行することができます。これはたとえば，外部アクションを呼び出す多数の条件ステートメントを使用している場合，実行セッションによってはアクションが一部必要でないこともあるため，テストを開くたびにそれらのアクションを全部はロードしたくないというときに使用すると便利です。

ビットマップ・チェックポイント比較アルゴリズムの独自開発

ユーザ自身（またはサードパーティ）がビットマップ・チェックポイントを対象とした**ユーザ作成比較ツール**を開発できるようになりました。ユーザ作成比較ツールは，チェックポイントのためのビットマップ比較をユーザのテスト要件に従って行う COM オブジェクトです。QuickTest は，ユーザ作成比較ツールを使用するビットマップ・チェックポイントを実行するとき，期待ビットマップと実際のビットマップをユーザ作成比較ツール・オブジェクトに渡します。QuickTest はその後，ユーザ作成比較ツールが返す結果を受け取り，それを報告します。

ユーザ作成比較ツールの作成方法の詳細については，QuickTest 10.00 のヘルプに含まれている『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』のビットマップ・チェックポイントのカスタマイズに関する付録を参照してください。

［タスク］表示枠を使用した作業項目とタスクの一元管理

新しい［タスク］表示枠を使用して，ユーザ定義のタスクの作成と管理，ユーザのテスト，コンポーネント，関連付けられている関数ライブラリに対する TODO コメントを集めたセットの表示が可能です。

新しいレポート機能によるテスト結果分析の向上

- ［テスト結果］ウィンドウ内の特定のノードに関する詳細を知りたい場合，対象ノードを右クリックして［**QuickTest 内のステップへ移動**］を選択すると，QuickTest テスト・ドキュメント内の該当するステップが表示されます。
- QuickTest の実行結果は，Microsoft Word 形式または PDF 形式にエクスポートできます。
- **Reporter.ReportEvent** メソッドを使用してテスト結果に情報を追加するとき，4 番目の引数として画像ファイルを指定することができます。
- ビットマップ・チェックポイントの期待ビットマップと実際のビットマップに加えて，両者の差異のみを示す画像を表示することも選択できます。
- 実行結果を印刷またはエクスポートする際に［**詳細**］オプションを選択したとき，ドキュメントにすべての画像が含まれるようになりました。
- Quality Center のテスト・セットの一部として実行されるテストおよびコンポーネントの実行結果に，Quality Center サーバとプロジェクト名が含まれるようになりました。

標準 Delphi オブジェクトおよびカスタム Delphi オブジェクトのテスト

- 新しい Delphi Add-in により，Win32 VCL Delphi コントロールのテストが可能です。
- Delphi Add-in 拡張により，サードパーティおよびカスタムの Delphi コントロールを使用するアプリケーションのサポートを開発できます。

新たにサポートする環境

QuickTest は，従来のバージョンでサポートしていた環境に加え，次のオペレーティング・システム，ブラウザおよび開発環境をサポートするようになりました。

- Microsoft Windows 2008 Server 32 ビット・エディション
- Microsoft Windows 2008 Server 64 ビット・エディション
- Microsoft Windows Vista，Service Pack 1，32 ビット・エディション
- Microsoft Windows Vista，Service Pack 1，64 ビット・エディション
- Microsoft Windows XP Professional 32 ビット・エディション - Service Pack 3
- Citrix Presentation Server 4.5
- Microsoft Internet Explorer 8.0 Beta 2
- Mozilla Firefox 3.0.x
- **Delphi**：IDE，バージョン 6，7，および 2007（Win32 VCL ライブラリに基づくコントロール用）
- **SAP**：CRM 2007（テスト・モード拡張をサポートするコントロール用。必須 SAP Notes: 1147166，1066565，および 1002944。テスト・モード拡張に関連する以降の SAP Notes はサポートしていません）。
- **Java**：IBM 32 ビット JDK 1.5.x，SWT ツールキットのバージョン 3.4
- **Java Add-in 拡張**：Eclipse IDE 3.4
- **.NET**：.NET Framework 3.5 ñ Service Pack 1

サポートしているすべてのオペレーティング・システム，ブラウザ，および開発環境の網羅的なリストについては，9 ページ「システム要件」および「HP QuickTest Professional 10.00 Product Availability Matrix」を参照してください。

機能強化

QuickTest 10.00 で強化された機能には，次の機能が含まれます。

- QuickTest 9.5 からのアップグレード
- IntelliSense 機能の向上
- オートメーション・スクリプトのアクションを編集，管理するためのコントロールの追加
- デバッグ表示枠の設計と機能の向上
- メンテナンス実行モードにおける新しいオブジェクト識別ソリューション
- テキスト認識メカニズムのための追加の設定項目
- ［オプション］，［設定］，［ファイル］の各ダイアログ・ボックスの新しい外観
- QuickTest ツールバー・カスタム設定オプション
- Web Add-in 拡張の向上
- .NET Add-in および拡張の向上
- ターミナル・エミュレータの新しい設定妥当性チェック

システム要件

重要：このセクションに示す情報は，本リリース時における正しい情報です。サポートされるシステム構成の最新情報については，http://www.hp.com/jp/QTP_SysReq ページを参照してください。

QuickTest Professional を正常にインストールして実行するための最小限のシステム要件は次のとおりです。

コンピュータ / プロセッサ：	Pentium III 以上のマイクロプロセッサ（Pentium 4 以上推奨）を搭載した PC。
オペレーティング・システム：	➤ Windows 2000 Professional - Service Pack 4，Windows 2000 Service Pack 4 用更新プログラム・ロールアップ 1 ➤ Windows XP Professional 32 ビット・エディション - Service Pack 2 または Service Pack 3 ➤ Windows XP Professional 64 ビット・エディション - Service Pack 2 ➤ Windows Server 2003 32 ビット・エディション - Service Pack 2 ➤ Windows Server 2003 64 ビット・エディション - Service Pack 2 ➤ Windows Server 2003 R2（32 ビット x86） ➤ Windows Vista 32 ビット・エディションまたは Windows Vista 32 ビット・エディション - Service Pack 1 ➤ Windows Vista 64 ビット・エディションまたは Windows Vista 64 ビット・エディション - Service Pack 1 ➤ Windows Server 2008 32 ビット・エディション ➤ Windows Server 2008 64 ビット・エディション **注：**Quality Center クライアントは，64 ビット対応のオペレーティング・システムをサポートしません。したがって，64 対応のオペレーティング・システムを使用する場合には，QuickTest-Quality Center 間の統合機能はサポートされません。
メモリ：	512 MB 以上の RAM。［**ムービーをテスト結果へ保存**］オプションを指定して，実行セッション中にムービーをキャプチャする場合には，1 GB 以上の RAM。
色の設定：	High Color（16 ビット）以上

グラフィック・カード：4 MB（8 MB 以上を推奨）のビデオ・メモリを備えたグラフィック・カード

ハードディスク・ドライブの空き領域：標準のアドインのみをインストールする場合には，アプリケーション・ファイルとフォルダ用に 650 MB。すべてのアドインをインストールする場合には，800 MB（1 GB を推奨）。

このほかに，システム・ディスク（オペレーティング・システムがインストールされているディスク）に 120 MB を確保する必要があります。すべての QuickTest アドインをインストールしない場合，必要な空きディスク容量はこれより少なくなります。空き領域の要件には，QuickTest をインストールする前にインストールしておく必要のある前提条件（もしあれば）のためのディスク容量は含まれていません。

QuickTest Professional のインストール後，オペレーティング・システムおよび QuickTest Professional が正しく動作するように空きディスク領域を少なくとも 150 MB 確保することをお勧めします。

ブラウザ：QuickTest Professional を使うには，次のいずれかのバージョンの Microsoft Internet Explorer がコンピュータにインストールされている必要があります。

- Microsoft Internet Explorer 6.0 Service Pack 1
- Microsoft Internet Explorer 7.0
- Microsoft Internet Explorer 8.0 Beta 2

QuickTest を使うには，前記のいずれかのブラウザがインストールされている必要があります。テスト用にサポートされているブラウザのバージョンの詳細については，「HPQuickTest Professional 10.00 Product Availability Matrix」を参照してください。

ヒント：「Product Availability Matrix」ドキュメントを独立の Adobe Reader ウィンドウで開くには，CTRL キーを押しながら前記のリンクをクリックするか，Adobe Reader の［環境設定］ダイアログ・ボックス（［**編集**］＞［**環境設定**］）で［**他のファイルへのリンクを同じウィンドウで開く**］オプションをクリアします。

サポート対象環境およびプログラム

サポートされている環境およびプログラムの網羅的なリストについては，「HPQuickTest Professional 10.00 Product Availability Matrix」を参照してください。

ヒント：「Product Availability Matrix」ドキュメントを独立の Adobe Reader ウィンドウで開くには，CTRL キーを押しながら前記のリンクをクリックするか，Adobe Reader の［環境設定］ダイアログ・ボックス（［**編集**］＞［**環境設定**］）で［**他のファイルへのリンクを同じウィンドウで開く**］オプションをクリアします。

重要：前記のリンク先のドキュメントに記載されている情報は，本リリース時における正しい情報です。サポートされる環境およびプログラムの最新情報については，http://www.hp.com/go/QTP_SysReq ページを参照してください。

その他の重要情報

本項では，以下に示す環境について補足情報を提供する。本項の情報は，前記の「**HP QuickTest Professional 10.00 Product Availability Matrix**」ドキュメントで提供しているデータと共に用いてください。

- 12 ページ「HP 製品の統合」
- 12 ページ「.NET Add-in」
- 13 ページ「Oracle Add-in」
- 13 ページ「Add-in for SAP Solutions」
- 13 ページ「Siebel Add-in」
- 13 ページ「標準 Windows アプリケーション」
- 14 ページ「Terminal Emulator Add-in」
- 14 ページ「Visual Basic Add-in」
- 14 ページ「Web Services Add-in」

HP 製品の統合

Quality Center のテスト・ラボ・モジュールからテスト・セットをリモート実行するときのパフォーマンスを向上させるには，Quality Center の最新のパッチを使用する必要があります。

.NET Add-in

- QuickTest Professional .NET Add-in は，アプリケーションの作成に使われた言語（VisualBasic.NET，C# など）に関係なく，**System.Windows.Controls.Control** クラスから直接的または間接的に継承された WPF コントロールをサポートします。また，**System.Windows.Controls.Control** クラスから継承されて，WPF Add-in がロードされたときにオートメーション・インタフェースを実装するサードパーティの WPF コントロールもサポートします。
- QuickTest Professional .NET Add-in は，以下をサポートします。
  - **System.Windows.Forms** ライブラリからの標準 .NET Windows Forms のテスト
  - **System.Windows.Forms.Control** クラスから継承されたサードパーティの .NET Windows Forms コントロールのテスト
- HP QuickTest Professional 10.00 Product Availability Matrix に記載されているコントロールのほかに，さまざまな Infragistics .NET Windows Forms コントロールに対応するカスタム QuickTest Professional サポートが Infragistics TestAdvantage から提供されています。詳細については，次を参照してください：http://www.infragistics.com/dotnet/testadvantageoverview.aspx#Overview
- アプリケーションの .NET Windows Forms オブジェクトの完全なタイプ名を表示するには，オブジェクト・スパイで **SwfTypeName** 識別プロパティを表示します。

  また，次の構文を使ってステートメントを実行することにより，選択したオブジェクトの基本タイプのリストを表示することもできます。

  MsgBox SwfTestObj(descr).GetROProperty("SwfTypeNames")

  SwfTestObj(descr) は，チェックの対象にするテスト・オブジェクトです。

  このステートメントを実行するとメッセージ・ボックスが開き，リストの一番上に実際のクラスが表示され，その下に基本クラスが表示されます。

Oracle Add-in

Oracle Forms および Oracle E-Business ツールキットは，Sun Plug-in を使用して Oracle JInitiator または Oracle Forms で作業をする場合にのみサポートされます。

Add-in for SAP Solutions

- SAP eCATT との統合はサポートされていません。SAP eCATT のサポートを提供するパッチを入手するには，HP ソフトウェア・サポートに問い合わせてください。
- CRM 2007 は，テスト・モード拡張をサポートするコントロール用にのみサポートされます。必須 SAP Notes: 1147166，1066565，および 1002944。テスト・モード拡張に関連する以降の SAP Notes はサポートしていません。
- QuickTest Professional Add-in for SAP Solutions がロードされているときに，ほかの Web ベース・アドインを使用することはお勧めできません。Add-in for SAP solutions は一部の Web 構成の設定を変更するため，ほかのアドインやアプリケーションに影響を与える可能性があります。
- 「HP QuickTest Professional 10.00 Product Availability Matrix」に記載されている SAP のパッチ・レベルは，最低限のサポート・レベルです。別途指定のないかぎり，以降のパッチ・レベルもサポートされる可能性があります。より新しいパッチを使用している SAP アプリケーションをテストする場合は，HP ソフトウェア・サポートに問い合わせて，QuickTest Professional Add-in for SAP Solutions がそのパッチのバージョンと互換性があるかどうか確認してください。

Siebel Add-in

Siebel 7.7.x およびそれ以降は，Siebel Test Automation モジュールがインストールされて有効になっている場合のみサポートされます。Siebel Test Automation のインストールと設定の詳細については，Siebel システムに付属の『**Testing Siebel eBusiness Applications Guide**』（英語版）を参照してください。

標準 Windows アプリケーション

QuickTest Professional は，Win32 API および MFC に基づいたアプリケーションに対するテストをサポートしています。64 ビット・アプリケーションに対するテストはサポートしていません。

Terminal Emulator Add-in

➤「HP QuickTest Professional 10.00 Product Availability Matrix」のエミュレータのより新しいバージョンを使用している場合や，使用しているエミュレータのバージョンが記載のものとマイナー・バージョン番号だけが異なっている場合には，ターミナル・エミュレータ設定ウィザードで最も近い事前設定済みのバージョンを選択してください。QuickTest Professional Terminal Emulator Add-in は，そのエミュレータに対しても正しく動作するはずです。

QuickTest Professional Terminal Emulator Add-in は，前述以外のターミナル・エミュレータのほとんどに対しても使用できます。ターミナル・エミュレータ設定ウィザードを使うことにより，必要とする正確な構成設定を定義できます。

詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』（英語版）を参照してください。

Visual Basic Add-in

➤ Visual Basic .NET アプリケーションは，QuickTest Professional .NET Add-in によってサポートされます。

Web Services Add-in

WSDL の相互運用性の検証には，サポートされているバージョンの WS-I Interoperability Testing Tools が必要です。

HP Unified Functional Testing

こんにちのアプリケーション近代化の流れと，複合的なアプリケーションの増加に伴い，1 つのビジネス・プロセスを検証するのにも，機能テストの範囲は，GUI ベースのテストだけでなく，サービスのテストにまで及びます。

HP Unified Functional Testing パッケージは，アプリケーションの GUI 要素およびヘッドレス要素の両者の妥当性を確認できるようにすることで，こうした複雑なビジネス・プロセスの包括的なテストを実現します。

HP Unified Functional Testing パッケージには，HP QuickTest Professional および HP Service Test が含まれます。

UFT（Unified Functional Testing）ライセンス：使用条件

UFT（Unified Functional Testing）ライセンスを購入すると，**Functional Testing Core**，**Functional Testing Add-ins**，および **Service Test** の 3 つの別々のライセンス・キーを受け取ります。

- UFT コンカレント・ライセンスには，次の使用条件があります。
  - これらのライセンス・キーは 3 つとも同じコンカレント・ライセンス・サーバにインストールする必要があります。
  - 1 つの UFT ライセンスで，1 人のユーザが QuickTest Professional と Service Test の両方のラインセンスを同時に使用する許可が与えられます。しかし，2 人の異なるユーザが QuickTest Professional と Service Test のライセンスを同時に使用することはできません。

    ライセンスの使用状況は，いつでも WLMADMIN ユーティリティを使用して監視できます。詳細については，『**HP Functional Testing Concurrent License インストール・ガイド**』を参照してください。
- UFT シート・ライセンスには，次の使用条件があります。
  - 1 つの UFT シート・ライセンスに対して与えられる 3 つのシート・ライセンス・キーは，同じ 1 人のユーザが使用しなければなりません。

Unified Functional Testing の詳細については，HP Quality Management の販売担当までお問い合わせください。

参考情報

本項では，QuickTest Professional 10.00 に関する参考情報を示します（アドインごとに分割しています)。

➤ 16 ページ「全般的な参考情報」

➤ 21 ページ「.NET - 参考情報」

➤ 23 ページ「Oracle - 参考情報」

➤ 23 ページ「PeopleSoft - 参考情報」

➤ 24 ページ「SAP - 参考情報」

➤ 25 ページ「Siebel - 参考情報」

➤ 27 ページ「Stingray - 参考情報」

➤ 29 ページ「ターミナル・エミュレータ - 参考情報」

➤ 29 ページ「Web - 参考情報」

全般的な参考情報

➤ QuickTest Professional 9.5 から QuickTest Professional 10.00 へのアップグレードは，QuickTest をアンインストールせずにアップグレードすることが可能です（インストールを実行すると，セットアップ・プログラムが自動的に QuickTest 9.5 を検出して，QuickTest 10.00 にアップグレードするかどうか尋ねてきます。

QuickTest Professional 9.2 またはそれ以前のバージョンから QuickTest Professional 10.00 にアップグレードする場合は，まず前バージョンの QuickTest Professional と Quality Center Add-in （インストールされている場合）をアンインストールする必要があります。

➤ QuickTest Professional をインストールするには，管理者権限でログインする必要があります。

- QuickTest Professional 9.2 またはそれ以前のバージョンからアップグレードする場合には，Save and Restore ユーティリティを使用して，古いバージョンの QuickTest をアンインストールする前に既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーがあればそれらを保存しておき，新しいバージョンをインストールした後にそれらを復元できます。

  Save and Restore Settings ユーティリティは，拡張および Web イベント設定用の **.xml** ファイルに手動で加えたカスタマイズを保存する場合に特に便利です。

  詳細については，QuickTest インストール DVD のルートから Save and Restore Settings ユーティリティを開き，［**Help**］ボタンをクリックしてください。

- QuickTest Professional のデバッグ機能を使用するには，Microsoft Script Debugger をインストールする必要があります。Script Debugger は，次のようにインストールします。

  - QuickTest Professional のセットアップ後
  - ［**プログラムの追加と削除**］の［**Windows コンポーネントの追加と削除**］オプションを使用
  - QuickTest Professional のプログラム・フォルダからアクセスできる**インストールの追加要件**ツールを使用（［**スタート**］＞［**プログラム**］＞［**QuickTest Professional**］＞［**Tools**］＞［**Additional Installation Requirements**］）
  - Microsoft の次のサイトからダウンロード：http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=E606E71F-BA7F-471E-A57D-F2216D81EC3D&displaylang=ja。

- コンカレント・ライセンスを QuickTest Professional 10.00 で使用する場合は，HP（Mercury）Functional Testing Concurrent Licese Server のバージョン 9.0 以降をインストールする必要があります。QuickTest Professional 10.00 は，それ以前のバージョンの HP Functional Testing Concurrent License Server と互換性がありません。

Windows ベース環境に対するテキスト認識

テキスト / テキスト範囲のチェックポイントまたは出力値のコマンドを使用して，Windows ベース・オブジェクトのテキストの検証や取得が行えます。代わりの方法として，**testobject.GetText** （ターミナル・エミュレータ・オブジェクトの場合），**testobject.GetVisibleText** または **testobject.GetTextLocation** の各テスト・オブジェクト・メソッド，あるいは **TextUtil.GetText** または **TextUtil.GetTextLocation** 予約済みメソッドを使用して，必要なテキストをキャプチャできます。

テキスト / テキスト領域チェックポイントまたは出力値ステップのためのテキストをキャプチャするとき，あるいは前記のメソッドのいずれかを使用するとき，QuickTest は，［オプション］ダイアログ・ボックスの［**一般**］＞［**テキスト認識**］表示枠の設定に応じて，Windows API をベースとするメカニズム（標準設定のメカニズム），または ABBYY Software Ltd. が提供する OCR（光学式文字認識）のメカニズムを使用してオブジェクトからテキストを直接取得します。

テキスト認識の動作は，次のレジストリ・キーの値を変更することでも設定できます。
HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥Mercury Interactive¥QuickTest Professional¥MicTest¥OcrEngine

---

重要：Windows レジストリ・エディタは，システム・レジストリの設定を変更するために使用できる高度なツールです。レジストリは，確実に必要な場合を除いて編集するべきではありません。レジストリに誤りがあると，コンピュータが正しく動作しないことがあります。

次の表に，**OcrEngine** キーで指定可能な値を示します。

名前	設定可能な値
maxHforSingleBlock および **maxWforSingleBlock**	単一のテキスト・ブロックの高さまたは幅をピクセル単位で示します。例：29。OCR メカニズムにオブジェクトを単一のテキスト・ブロックとして扱うように指示するために両方の値エントリを変更します。 標準設定値は両方とも **0** です（単一のブロックの高さと幅の最大ピクセル数は定義されないため，複数のテキスト・ブロックを使用する必要があることを示しています）。 **ヒント**： ➤ 小さいオブジェクトまたは小さいテキスト領域のテキストはキャプチャされないことがあります（またはキャプチャが正しくない）。このような場合，テキスト領域の最大サイズをピクセル単位で指定すると，テキスト認識の向上に役立つ可能性があります。この指定により OCR メカニズムは特定の領域に焦点を合わせ，（通常，複数のテキスト・ブロックとして扱われる）その領域を単一のテキスト・ブロックとして扱うようになります。 ➤ オブジェクトの高さと幅は，QuickTest のオブジェクト・スパイを使用して調べることができます。 **注**：QuickTest が**単一テキスト・ブロック・モード**または**複数テキスト・ブロック・モード**のどちらを使用するかを QuickTest 内から制御するには，［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**一般**］ノード＞［**テキスト認識**］ノードを選択し，そこで関連のあるオプションを選択します。

名前	設定可能な値
モード	**0** - OCR なし。QuickTest に（OCR のメカニズムではなく）Windows API ベースのメカニズムのみを使用してオブジェクトからテキストを取得するように指示します。 **1** - Windows API/OCR。QuickTest に最初に OCR メカニズムを使用してテキストを対象オブジェクトから直接取得するように指示します。テキストを取得できなかった場合，QuickTest は Windows API ベースのメカニズムを使用してのテキストの取得を試みます（標準設定）（日本語，韓国語，中国語での作業時には特にお勧めします）。 **2** - OCR/Windows API。QuickTest に最初に OCR メカニズムを使用してテキストを対象オブジェクトから取得するように指示します。テキストを取得できなかった場合，QuickTest は Windows API ベースのメカニズムを使用してオブジェクトからテキストを取得します。 **3** - OCR のみ。OCR メカニズムのみを使用して，オブジェクトからテキストを取得するように QuickTest を設定します（Windows API ベースのメカニズムは使用しません）（Windows Vista で作業するときは必須です）。 **注**：また，QuickTest で［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**一般**］ノード＞［**テキスト認識**］ノードで関連する［**この順番でテキスト認識メカニズムを使用する**］オプションを選択すれば，テキスト認識モードを設定できます。
supportedLanguages	OCR メカニズムがオブジェクトからテキストを取得するときに使用する言語辞書を示します。 English,German,Spanish,French のように，言語をカンマで区切って指定します。 **注：** ➤ 表意文字言語（CJK—中国語，日本語，韓国語）と非表意文字言語の組み合わせはサポートされていません。たとえば，English,Japanese のようには指定できません。 ➤ 一度にサポートされる文字言語は 1 つだけです。 また，QuickTest で［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**一般**］ノード＞［**テキスト認識**］ノードを選択し，［**サポートされる言語**］に含める言語を［**使用可能な言語**］のリストから選択することでも，サポートされる言語を指定できます。

注：Windows ベースのオブジェクトを対象とするこれらのテキスト・キャプチャ・オプションやメソッドが利用できますが，このテキスト認識メカニズムは不要なテキスト情報（非表示テキスト，網がけのテキストなど）をキャプチャする場合があること，またテキストの内容を誤解釈する場合があること考慮してください。

さらに，テキスト・キャプチャ・ステップは，使用するオペレーティング・システムのバージョン，インストールされているサービスパック，インストールされているほかのツールキット，アプリケーションで使用される API などによって，異なる実行セッションで異なった動作を行う場合があります。

したがって，可能であれば，**text** （または同様の）プロパティを取得する対象となるテキストを含んだオブジェクトを対象とする標準チェックポイント，出力値，または **GetROProperty** メソッドを挿入してアプリケーションのウィンドウからテキストを検査することをお勧めします。

詳細については，『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』の該当する項を参照し，『**QuickTest Object Model Reference**』ヘルプ（英語版）において **GetText**，**GetVisibleText**，および **GetTextLocation** の各メソッド検索してください。

また，86 ページ「Windows ベース環境に対するテキスト認識のサポート」の制限事項も参照してください。

.NET - 参考情報

- Oracle アプリケーションをテストするために Oracle Add-in を使用している場合は，.NET Add-in をロードしないでください。
- .NET Web Forms のサポートは，SAP または Siebel のアドインがロードされていると正しく機能しません。.NET Add-in を使用して Web Forms コントロールをテストを行う場合には，SAP Add-in および Siebel Add-in はロードしないでください。
- **.Object** プロパティを使用すると，WPF，.NET Windows Forms，および .NET Web Forms オブジェクトのすべてのプロパティとメソッドにアクセスできます。
- 最も一般的な UI コントロールについては，コンテキスト・センシティブ・サポートも提供されています。

➤ **SwfTable.SetCellData** メソッドが記録されるのは，編集されたセルから別のセルへフォーカスが移動した後だけです。

Microsoft .NET Framework 1.0 を使用するアプリケーションのテスト

1 つのアプリケーションで，それぞれ異なるバージョンの Microsoft .NET Framework に基づいて作成されたコンポーネントが使用される場合があります。CLR バージョン 1.1 以降での標準の動作は，フレームワーク・アセンブリの使用を統合するというものです。アプリケーションに関連付けられる実行時バージョンによって，アプリケーションとそのすべてのコンポーネントがどのバージョンの Microsoft .NET Framework アセンブリを使用するかが決まります。

たとえば，アプリケーションがバージョン 1.1 の Microsoft .NET Framework と関連付けられていて，System.Data アセンブリを使用する場合には，バージョン 1.1 の System.Data アセンブリがロードされて，そのアプリケーションが使用するすべてのコンポーネントの間で共有されます。いずれかのアプリケーション・コンポーネントがバージョン 1.0 の System.Data アセンブリを参照している場合，その参照は実行時にバージョン 1.1 を参照するように上位変換されます。

Microsoft .NET Framework 1.0 は，標準設定では統合を実行しません。したがって，それぞれ異なるバージョンの Microsoft .NET フレームワークを使って作成されたコンポーネントを使用するアプリケーションは，実行時に同じアセンブリの異なるバージョンをロードすることがあります。

NET Framework 1.0 を使用するアプリケーションをテストする場合は，以下で説明しているように，マシン・レベルでフレームワーク・アセンブリのバインディング・リダイレクトを適用する必要があります（バージョン 1.0 の場合のみ）。必要な設定変更を行わずに .NET Framework 1.0 に基づいたアプリケーションをテストすると，予期しない結果が生じる場合があります。

.NET Add-in をインストールした後で Microsoft .NET Framework 1.0 の設定を手動で更新するには，次の手順を実行します。

1. 管理者権限を持つアカウントでコンピュータにログインします。
2. コマンド・プロンプトを開きます（［**スタート**］＞［**プログラム**］＞［**アクセサリ**］＞［**コマンド プロンプト**］）。
3. **cd /d ＜ QuickTest Professional インストール・パス＞ ¥bin** と入力してから ENTER キーを押すことで，パスを QuickTest Professional の **bin** フォルダに変更します。

4 **NetUpdateConfig /config** と入力して ENTER キーを押します。

このコマンドは，Microsoft .NET Framework 1.0 のインストール・フォルダの下にある **machine.config** ファイルに必要な変更を加えます。元のファイルは **machine.config.bak** として保存されます。

詳細については，http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/db7849ey(vs.71).aspx を参照してください。

Oracle - 参考情報

- QuickTest Professional Oracle Add-in は，Java クライアント（Windows クライアントではなく）の使用をサポートしています。
- Oracle アプリケーションをテストするために Oracle Add-in を使用している場合は，.NET Add-in をロードしないでください。
- Oracle Applications サーバは，多くのアプリケーション・オブジェクトに対して一意の **Name** 属性を割り当てます。QuickTest はこの属性を使ってオブジェクトを識別できます。これによってテスト・オブジェクトの記述の信頼性が高くなるため，通常は序数記述子を学習する必要がなくなります。序数記述子はテストを記録したり，実行したりする間に変化する可能性があります。

  テスト・オブジェクトの記述における **Name** 属性の使用の詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

PeopleSoft - 参考情報

- PeopleSoft Add-in がロードされている間は Web アプリケーションに対するテストの記録や実行を行わないでください。
- PeopleSoft Add-in は，QuickTest Professional Add-in for SAP Solutions，QuickTest Professional Siebel Add-in とは互換性がありません。PeopleSoft Add-in をロードする場合は，これらのアドインをロードしないでください。

SAP - 参考情報

- QuickTest は，**SAP.txt** 関数ライブラリを提供します。このライブラリは，SAP Gui for Windows アプリケーションを対象とするテスト機能を拡張し，キーワード方式の SAP ステップを，特にビジネス・コンポーネント向けに作成しやすくします。この関数ライブラリは，ローカルでは，**＜ QuickTest インストール・フォルダ＞ ¥dat¥BPT Resources** にあり，Quality Center プロジェクトに接続したときにはそこにもアップロードされ格納されます。ビジネス・プロセス・テストの詳細については，『**HP Business Process Testing User Guide**』（英語版）を参照してください。
- ［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスの［Windows Applications］タブで［**次のみを対象として記録して実行する**］を選択し，Windows アプリケーションのリストが空であることを確認してください。これらの設定をしておけば，テストに直接関係のない Windows アプリケーション（電子メールなど）での操作をセッションの記録中に誤って記録してしまうことを防ぎ，SAP アプリケーションに対するテストの記録や実行を行うときに QuickTest が不要なアプリケーションを開くことを防ぎます。
- PeopleSoft Add-in は，QuickTest Professional Add-in for SAP Solutions，QuickTest Professional Siebel Add-in とは互換性がありません。PeopleSoft Add-in をロードする場合は，これらのアドインをロードしないでください。
- .NET Web Forms のサポートは，SAP または Siebel のアドインがロードされていると正しく機能しません。.NET Add-in を使用して Web Forms コントロールをテストを行う場合には，SAP Add-in および Siebel Add-in はロードしないでください。

SAP GUI for Windows アプリケーションのテスト

SAP Gui for Windows アプリケーションをテストするときには，以下のヒントとガイドラインに注意してください。

- SAP Gui for Windows アプリケーションのテストは，SAP Gui scripting API を使って実行されます。この API は，特定の環境でサポートされます。詳細については，www.sap.com を参照してください。
- SAP Gui for Windows アプリケーションに対するテストの設計を始める前に，以下の点を含め，SAP サーバおよびクライアントが適切に設定されていることを確認してください。
  - アプリケーション・サーバおよびクライアントにインストールされているパッケージとパッチのバージョンを確認する。

- SAP アプリケーション・サーバ上と SAP Gui for Windows クライアント上でスクリプティング・インタフェースを有効化する。
- SAP クライアントの F4 ヘルプ設定を，適切な表示モードを使用するように設定する。
- 接続先のサーバに対して［**低速接続**］オプションが選択されていないことを確認する。

  これらの設定の詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

- QuickTest が記録するステップは，SAP Scripting API によって送信されたイベントに基づいています。したがって，QuickTest ではユーザが実行した個々の操作のステップを記録しますが，記録したステップがテストに追加されるのは QuickTest に API イベントが送信されたとき（SAP サーバに情報が送信されたとき）だけです。また，実行した操作に直接対応しないステップがテストやコンポーネントに見つかったり，実行した 1 つの操作が複数のステップとして表示されたりする場合もあります。SAP Scripting API イベントの詳細については，SAP のマニュアルを参照してください。
- SAPGuiSession テスト・オブジェクトには，現在のセッションに関する情報が含まれています。テスト内で SAPGuiSession テスト・オブジェクト上にチェックポイントを作成すると，ステータス・バーに表示されるすべての情報（システム名，システム番号，現在のトランザクション，ユーザ名など）をチェックできます。

Siebel - 参考情報

このセクションの情報は，Siebel Add-in 全般に該当します（すべての Siebel バージョンについて）。

- パフォーマンスを最適化するために，Siebel アプリケーションをテストするときには Siebel Add-in **だけ**をロードすることを強くお勧めします。Siebel Add-in を使用するために QuickTest Professional Web Add-in をロードする必要はありません。
- Siebel オブジェクトを含まない Web アプリケーションをテストするときには Siebel Add-in をロードしないでください。

- Siebel Add-in がロードされている場合，Web および Siebel オブジェクトのオブジェクト認識定義は自動的に設定され，Web または Siebel オブジェクトのオブジェクト認識定義にアクセスすることはできません（Web Add-in も合わせてロードされている場合も）。
- Siebel 7.7.x より前の Siebel バージョンに対して記録されたテストまたはコンポーネントを Siebel 7.7.x アプリケーションに対して実行することはできません。Siebel 7.7.x アプリケーションに対して記録されたテストまたはコンポーネントをそれ以前の Siebel バージョンに対して実行することはできません。
- Siebel Add-in で作成したテストおよびコンポーネントの記録中と実行中には，Java 仮想マシンと同じブラウザ設定を使用することをお勧めします。これは，Sun Plug-in を使った場合と Java 仮想マシンを使った場合とでは，アプレットの表現方法が異なるためです。
- PeopleSoft Add-in は，QuickTest Professional Add-in for SAP Solutions，QuickTest Professional Siebel Add-in とは互換性がありません。PeopleSoft Add-in をロードする場合は，これらのアドインをロードしないでください。
- .NET Web Forms のサポートは，SAP または Siebel のアドインがロードされていると正しく機能しません。.NET Add-in を使用して Web Forms コントロールをテストを行う場合には，SAP Add-in および Siebel Add-in はロードしないでください。

Siebel 7.7.x 以降に関する情報

本項の情報は，Siebel 7.7.x 以降のアプリケーションに対して QuickTest Siebel Add-in を使用する場合にのみ該当します。

- Siebel 7.7.x 以降のアプリケーションをテストするには，Siebel サーバに Siebel Test Automation モジュールがインストールされていて，正しく設定されている必要があります。詳細については，Siebel システムに付属の『Testing Siebel eBusiness Applications Guide』を参照してください。
- Siebel Test Automation をロードするには，追加の URL パラメータを指定する必要があります。詳細については，Siebel システムに付属の『Testing Siebel eBusiness Applications Guide』（英語版）を参照してください。

  ［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスの［Siebel］タブで［**記録または実行セッションを開始する時，次のアプリケーションを開く**］オプションを選択した場合，QuickTest は必要なパラメータ値を自動的に追加します。［**開いているすべてのブラウザでテストを記録して実行する**］オプションを選択した場合は，必要なパラメータ値をアプリケーション URL の一部として指定する必要があります。

- Siebel アプリケーションで**セッション・タイムアウト**・エラーが発生した場合，ログイン・パラメータは保存されません。ログアウトして再びログインするときには，必要なパラメータ値を含んでいる正しい URL へ移動する必要があります。
- Siebel Add-in がロードされたときに，Web および SblXXX テスト・オブジェクトに 3 つの新しいプロパティが追加されます。その 3 つとは，**RepositoryName**，**UIName**，および **SiebelObjType** です。一部のオブジェクトでは，これらのプロパティ値は空でもかまいません。

Stingray - 参考情報

- QuickTest の Stingray オブジェクトに関するサポートは，QuickTest と対話して操作の記録と実行を可能にする Stingray アプリケーション内のエージェント・エンティティに基づいています。エージェント・エンティティの確立には次の 2 つの異なるモードが存在します。
  - **実行時エージェント・モード**：QuickTest は，実行時にエージェント DLL をアプリケーションのプロセスに挿入します。このモードを使用することをお勧めします。
  - **プリコンパイル済みエージェント・モード**：アプリケーションのソース・コードに小さな変更を加えて，アプリケーション・プロジェクトに追加される定義済みのエージェント・ファイルを参照するようにします。このモードは，Stingray アプリケーションが静的にリンクされた MFC ライブラリを使用する場合にのみ使用してください。

    Stingray オブジェクトのサポートをセットアップするには，Stingray サポート設定ウィザードを使用します。QuickTest Professional のインストール時に，Stingray Add-in をインストールすることを選択した場合，インストール・プロセスの最後に［インストールの追加要件］画面で，Stingray サポート設定ウィザードを実行するよう求められます。ウィザードは，選択したエージェント・モード，および対象アプリケーションが使用する Stingray ライブラリのバージョンに従って動作するように QuickTest を設定するために必要な手順を導いてくれます。ウィザードが設定作業中に問題を検出した場合は，表示された警告に注意してください。

    Stingray アプリケーションの異なるバージョンなどに合わせて QuickTest の Stingray サポートを後から設定し直すには，QuickTest プログラム・グループからウィザードを選択して起動するか，QuickTest で［オプション］ダイアログ・ボックスの［Stingray］表示枠から起動します（［**ツール**］＞［**オプション**］）。

実行時エージェント・モードで作業を行う WinRunner Stingray アドイン・ユーザのための注意事項：WinRunner Stingray Add-in とともにインストールされた Stingray エージェントのバージョンが，QuickTest Professional Stingray アドインとともにインストールされた Stingray エージェントのバージョンと異なる場合があります。標準設定では，QuickTest Professional の実行中に（アドインをロードしていてもいなくても）WinRunner Stingray Add-in をロードすると，QuickTest が予期しない動作をすることがあります（同じコンピュータに両方のアドインをインストールすることについては，何の制限もありません）。WinRunner Stingray Add-in と QuickTest を同時に使用したい場合は（Stingray オブジェクトを含む QuickTest テストを WinRunner から呼び出したい場合やその逆の場合など），まず WinRunner と QuickTest の両方で最新バージョンの Stingray エージェントが使用されるようにする必要があります。それには，**＜ QuickTest インストール・フォルダ＞ ¥bin¥StingrayAgent¥AgentDll\MFC ＜ ## ＞ ¥OG ＜ ####_OT ＜ #### ＞**および **＜ WinRunner インストール・フォルダ＞ ¥arch** の中で **Stgagent.dll** ファイルを探します。そして，古いほうのファイルを新しいほうに置き換えます。

➤ Stingray コントロールをチェックするために，以下の特殊プロパティが提供されています。

コントロール	プロパティ
WinTreeView	**items count**，**all items**，**selection**，および **checked**
WinTab	**items count**，**all items**，および **selection**
WinToolbar	**items count**

ターミナル・エミュレータ - 参考情報

- テストまたはコンポーネントを記録するときに，使用しているターミナル・エミュレータと QuickTest が正しく統合されるようにするために，記録を開始する **前に**ターミナル・エミュレータ・セッションを開いて接続するようにしてください。テストまたはコンポーネントを実行しているときに，そのテストまたはコンポーネントの先頭に **SystemUtil.Run** ステートメントを追加すれば，エミュレータ・セッションが自動的に QuickTest から起動されるようになります。詳細については，『**HP QuickTest Professional Object Model Reference**』（英語版）（英語版）の **Utility** の項を参照してください。
- 使用しているターミナル・エミュレータにターミナル・エミュレータ・ウィンドウのサイズをフォント・サイズに応じて自動的に変更するオプションがある場合は，そのオプションを有効にしてください。たとえば，EXTRA! 6.7 エミュレータの場合は，［**Settings**］＞［Font］＞［Autosize window to font size］の順に選択します。
- Quality Center などのほかの HP 製品から QuickTest Professional Terminal Emulator Add-in を使用して，テストまたはコンポーネントを実行することができます。それらのテストやコンポーネントを実行する前に，実行に使用するコンピュータ上で QuickTest の［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**ターミナル エミュレータ**］表示枠を使用して，必要なエミュレータを選択してください。

Web - 参考情報

- PeopleSoft Add-in がロードされている間は Web アプリケーションに対するテストの記録や実行を行わないでください。

注意事項および制限事項

本項には，QuickTest Professional の次の領域に関する情報と制限事項が記載されています （各領域は，該当する場合にはアドインごとにさらに分類されています)。

- 31 ページ「一般的な問題」
- 39 ページ「インストール，ライセンスおよび設定」
- 45 ページ「テスト・ドキュメントの作成，編集，および実行」
- 80 ページ「Quality Center 統合と Business Process Testing」
- 84 ページ「Microsoft Windows Vista および Windows Server 2008 の使用」
- 86 ページ「Windows ベース環境に対するテキスト認識のサポート」
- 87 ページ「ActiveScreen」
- 89 ページ「オートメーション」
- 89 ページ「データ・テーブル」
- 90 ページ「チェックポイントと出力値」
- 97 ページ「オブジェクト・リポジトリ」
- 97 ページ「HP 画面レコーダ」
- 98 ページ「QuickTest Professional ドキュメント」
- 99 ページ「LoadRunner とビジネス・プロセス・モニタの統合」

一般的な問題

本項には，次の項目が含まれています。

➤ 31 ページ「QuickTest - 一般的な問題」
➤ 31 ページ「Java - 一般的な問題」
➤ 34 ページ「Oracle - 一般的な問題」
➤ 35 ページ「PeopleSoft - 一般的な問題」
➤ 36 ページ「WPF - 一般的な問題」
➤ 36 ページ「.NET Windows Forms - 一般的な問題」
➤ 37 ページ「.NET Web Forms - 一般的な問題」
➤ 39 ページ「Stingray - 一般的な問題」
➤ 39 ページ「Web - 一般的な問題」

QuickTest - 一般的な問題

➤ QuickTest は隠しファイルをサポートしません。QuickTest のテスト，フォルダ，その他の QuickTest ファイルを隠しファイルにした場合（Windows エクスプローラの中で，フォルダまたはファイルのプロパティ・ダイアログ・ボックスの「**隠しファイル**」属性を選択した場合），QuickTest は予期しない動作をすることがあります。

Java - 一般的な問題

➤ Java Add-in 拡張サポートをロードするには，アドイン・マネージャの中で Java の配下にある子アドインを選択します。バージョン 10.00 より前のバージョンの Java Add-in Extensibility SDK を使用して開発されたサポートをロードした場合，選択した環境に対応するテスト・オブジェクト・クラスを表示する QuickTest ダイアログ・ボックス（［オブジェクト認識］ダイアログ・ボックスなど）を開くと，拡張テスト・オブジェクト・クラスが誤ったリストに表示されます。子アドインを［**環境**］リストの中で選択した場合，テスト・オブジェクト・クラスのリストは空です。その代わりに，［**環境**］リスト内の子アドインの配下ではなく，拡張テスト・オブジェクト・クラスは，Java 環境の直下に表示されます。

また，場合によっては，［オブジェクト認識］ダイアログ・ボックスの［**スクリプトの生成**］ボタンが正しく機能しないことがあります。

回避策：

a 子アドインに対応する次のテスト・オブジェクト設定ファイルを探します：
＜ QuickTest インストール・フォルダ＞ ¥dat¥Extensibility¥Java¥
＜アドイン名＞ TestObjects.xml

（Quality Center で作業をしている場合：
＜ QuickTest Add-in for Quality Center インストール・フォルダ＞
¥dat¥Extensibility¥Java ＜アドイン名＞ TestObjects.xml）。

b XML ファイル内で，**TypeInformation** 要素内の **PackageName** 属性を探し，その値を JavaPackage から，子アドインの名前に変更します。

c ファイルを保存して，改めて QuickTest 開きます。

d この拡張サポート（子アドイン）がサードパーティによって開発されたものである場合，そのサードパーティに連絡して支援を受けることをお勧めします。

➤ IME コンポジション・ウィンドウで JFC 単一行エディット・ボックス内のキーボード操作を記録しているときに ENTER キーを押してコンポジション文字列を選択すると，そのキー操作が **Activate** メソッドとして記録され，結果として余分なステップが生成される場合があります。次に例を示します。
JavaWindow("Application").JavaEdit("User Name").Activate この余分のステップは，通常は実行セッションに悪影響を与えることはありません。

回避策：テストまたはコンポーネントを実行する前に，記録された余分なステップを削除します。

➤ **java.exe** コマンドラインに **-Xincgc** フラグを付け加えると（［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスまたはバッチ・ファイルを使用），Java サポートが正しく機能しなくなります。

回避策：QuickTest の Java サポートを使ってテストを行う場合は，コマンドラインで **-Xincgc** を使わないようにするか，動的変換サポート機能を使わないようにします。詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。.

➤ Java テスト・オブジェクトの場合，**WaitProperty** メソッドの **PropertyValue** 引数（2 番目の引数）の型は **string** でなければなりません。

回避策：元の型の代わりに string を使用します。たとえば，**1** の代わりに "**1**" を使用します。次に例を示します。
y = JavaCheckBox("Active").WaitProperty ("enabled", "1", 1000)

- 標準設定では，Java ウィンドウの移動とサイズ変更は記録されません。これは，記録すると，場合によっては重複記録を引き起こすことがあるためです。

  回避策：Java アドインに対してこれらのアクションを記録するよう設定するには，**Setting.Java** メソッドを使用して，**record_win_ops** 変数を **1** に設定します。次に例を示します。Setting.Java("RECORD_WIN_OPS") = 1

- AWT ポップアップ・メニューは，標準 Windows コントロール・サポートの WinMenu テスト・オブジェクトによって記録されます（ほかの Java メニューは JavaMenu テスト・オブジェクトを使って記録されます）。このようなメニューに対してチェックポイントや Active Screen 操作を実行することはできません。

  回避策：ほかの検証メソッドを使用します（**GetTOProperty** など）。検証メソッドの詳細については，『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

- ［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスでコマンドラインから JAR ファイルを選択するときには，Java アプリケーションを起動する前に，［**コマンドライン**］ボックスに手動で **-jar** を付け加える必要があります。

- バッチ・ファイル（または別の実行可能ファイル）を使わず，**-jar** コマンドライン・オプションを指定せずに（JAR ファイルを選択した後で），［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスを使って Java アプリケーションを起動する場合は，Java クラスの完全修飾名を［**コマンド ライン**］ボックスに含める必要があります。

- JavaInternalFrame または JavaDialog オブジェクトの **.Object.startModal** を呼び出すと，ダイアログ・ボックスが閉じるまでの間に QuickTest が予期しない動作をする場合があります。

- 複数行編集フィールド・オブジェクト内でのマルチバイト文字の使用はサポートされていません。

- 表示する画像ファイルの名前によってラベルが決まるボタン・オブジェクト（JavaButton または JavaToolbar 内のボタン）の場合，テスト・オブジェクトに名前を付けるプロセスが，JDK 1.6 で実行しているときと JDK 1.5 で実行しているときとで異なります。

  したがって，JDK 1.5 で学習されてその画像ファイルに従ってラベル付けされたボタン・オブジェクトを含むテストまたはコンポーネントを JDK 1.6 で実行すると，失敗する可能性があります。

回避策：

- ➤ JavaButton オブジェクトの場合：JDK 1.6 でオブジェクトを学習し直します。その後，新しいテスト・オブジェクトを使用するようにテストを修正するか，オブジェクト・リポジトリから古いオブジェクトを削除してから新しいテスト・オブジェクトを該当のステップで使用されているオブジェクト名に変更します（[オプション］ダイアログ・ボックスの［一般］表示枠の中で［テスト オブジェクトの名称変更時にテストとコンポーネントのステップを自動的に更新する］オプションが選択されていることを確認してください)。
- ➤ JavaToolbar オブジェクト内のボタンの場合：JavaToolbar ステートメント内の **Item** 引数を，該当するボタンを参照するように変更します。ボタンのインデックスを指定するか，オブジェクト・スパイを使ってツールバー・ボタンを探索してからラベル識別プロパティを **Item** 引数として指定するという方法があります。

➤ キーボード・ショートカットの ALT+F4 キー（Java アプレットまたは Java アプリケーションを閉じるために使用されます）は，記録も実行もサポートされません。

回避策：記録セッション中に［**閉じる**］メニュー・コマンドまたはボタンを使って Java アプレットまたは Java アプリケーションを閉じます。また，手動で JavaWindow(...).Close ステップを付け加える方法もあります。

Oracle - 一般的な問題

➤ **OracleListOfValues.Select** は，最初のカラムに同じ値の項目が複数存在する場合には常に最初の項目を選択します。

回避策：最初の項目とは別の項目を選択するには，引数の値として，文字列ではなく，該当する項目のインデックス値を指定します。

➤ 別のタブ内のタブの階層は正しく記録されません。そのため，実行セッション中にそのような階層に対する自動タブ選択が機能しません。

回避策：**OracleTabbedRegion.Select** メソッドを，別のタブの中にあるタブ内のオブジェクトを対象とした操作を行うステップの前に追加します。

➤ Oracle アプリケーション・セッション中に［値のリスト］ウィンドウが表示されると，［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスの［**テスト終了時にアプリケーションからログアウトする**］オプションが機能しません。

- 実行セッション中に **OracleCalendar.Enter** ステップが間違ったフィールドに値を入力する場合があります。

  回避策：代わりに **OracleTextField.Enter** ステップを使用して，日付フィールドに値を入力します。

- OracleListOfValues および OracleNotification テスト・オブジェクトに対しては、Active Screen キャプチャはサポートされません。

- 記述のためにインデックス・プロパティを必要とするテスト・オブジェクト（range flexfield オブジェクトなど）は、Active Screen からは作成できません。

  回避策：［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックスで［**オブジェクトの追加**］ボタンを使って，それらのテスト・オブジェクトを Oracle アプリケーションから直接追加します。

- Oracle アプリケーションをテストするときには，回復シナリオ・ポップアップ・ウィンドウのトリガ・イベントはサポートされません。

- ブラウザの表示を更新することによって作成された Oracle アプリケーション・セッションに対するテストまたはコンポーネントの実行は，サポートされません。

- 複数の Oracle アプリケーション・セッションの同時テストはサポートされません。

- 複数行編集フィールド・オブジェクト内でのマルチバイト文字の使用はサポートされていません。

PeopleSoft - 一般的な問題

- 英語以外の UI のサーバでは，Active Screen が正しく機能しないことがあります。

- テストの記録中に検索操作をアクティブにするために ENTER キーを使用すると，テスト実行時に QuickTest がその操作を想定どおりに実行しない場合があります。

  回避策：マウスで［**検索**］ボタンをクリックして検索をアクティブにします。

- 操作を実行するためにキーボード・ショートカット・キーを記録中に使用することはサポートされていません。

WPF - 一般的な問題

➤ オブジェクト・スパイ（.NET アドインがロードされている場合は .NET Windows Forms スパイ）を使って WPF オブジェクトを探索するときに，［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスが探索対象の WPF アプリケーションを記録するように設定されていない場合，QuickTest はそのオブジェクトを標準 Windows オブジェクトとして認識します。

回避策：該当の WPF アプリケーションを閉じます。QuickTest で［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスを開き（［**オートメーション**］＞［**記録と実行環境設定**］），［Windows Applications］タブで［**開かれている Windows ベースのアプリケーションすべてでテストを記録して実行する**］オプションを選択します。WPF アプリケーションを再び開き，探索を実行します。

.NET Windows Forms - 一般的な問題

➤ 多数のコントロールを含むアプリケーションは，記録時にパフォーマンスの問題が生じる可能性があります。

回避策：キャプチャする情報量を減らすために，**Active Screen のキャプチャレベル**を［**部分**］または［**最低**］に変更します。これを行うには，［**ツール**］＞［**オプション**］［**ActiveScreen**］ノードの順に選択し，設定を変更します。

➤ キーボードのキーを使ってグリッド・コントロール内を移動すると（たとえばセルや行などを選択すると），その操作が正しく記録されない場合があります。

回避策：グリッド・コントロール内の移動にはマウスを使用します。

➤ 親行を持たないテーブルに対して Microsoft DataGrid コントロールの **Back** メソッドを呼び出した場合は，ステートメント実行時に何の操作も実行されず，エラー・メッセージも表示されません。

➤ カード・ビュー・モードではグリッド・コントロールはサポートされません。

➤ テストの実行中や記録セッションと実行セッションの間に DateTimePicker コントロールの形式を変更すると（たとえば "Long Date" から "Time" へ），テストの実行が失敗します。

➤ Simple Combobox スタイルのコンボ・ボックス・オブジェクトはサポートされません。

➤ テスト対象アプリケーションのウィンドウの中に，不透明プロパティ値が 100% ではない（つまり，フォームの全体または一部が透明になっている）ものがある場合，Active Screen は透明のウィンドウではなく，フォームの下に表示されている画像をキャプチャします。

- .NET Framework 1.0 または 1.1 を使って Microsoft PropertyGrid コントロール（および，おそらく Toolbar を内部要素として使用するほかの複合コントロール）に対して記録されたテストは，.NET Framework 2.0 を使って実行すると停止する場合があります。これは，.NET Framework 2.0 で PropertyGrid コントロールの上にある Toolbar コントロールが ToolStrip および MenuStrip コントロールと置き換えられたためです。

  回避策：適切な SwfToolBar テスト・オブジェクトの記述を正しい SwfTypeName 識別プロパティ値で更新します。

- 記録中にキーワード・ビューまたはエキスパート・ビューでテストまたはコンポーネントを編集すると，一部のテスト・オブジェクト・メソッドがキーワード・ビューで選択できなくなり，エキスパート・ビューの IntelliSense に表示されなくなります。さらに，記録中に一部のメソッドについて F1（[ヘルプ]）キーが正しく機能しなくなることがあります。

  回避策：テストまたはコンポーネントを編集したり F1 キーを使用する前に，記録を停止します。

- グリッド・コントロールに関する記録を開始する前に選択されていたグリッド・セルに対する操作は，誤って記録される可能性があります。たとえば，親グリッドの操作（SetCellData など）の代わりに子セル要素の操作が記録される場合があります。

  回避策：すでに選択されているセルに対して操作を実行する前に，記録を開始し，フォーカスを別のセルへ移動し，目的のセルを選択し直してから，必要な操作を実行します。

.NET Web Forms - 一般的な問題

- 特殊文字を含む WbfTreeView テスト・オブジェクトに対するテストは，予測どおりに動作しない場合があります。

  回避策：特殊文字を含んだ WbfTreeView 項目に対してテストを実行するには，#index 形式を使用します。詳細については，**.NET Web Forms オブジェクト・モデル・リファレンス・ヘルプ**を参照してください。

- WbfTreeView，WbfToolbar，および WbfTabStrip テスト・オブジェクトは，ブラウザ・コントロール・アプリケーションについてはサポートされていません。

- WbfTreeView，WbfToolbar，および WbfTabStrip オブジェクトに対しては、ActiveScreen 操作はサポートされません。

- WbfTreeView オブジェクトに対してページ移動を発生させる **Select** または **Expand** 操作を実行すると，同期の問題のために実行が失敗する可能性があります。

  回避策：WbfTreeView オブジェクトに対するテストを 1 ステップずつ実行してみます。つまり，**WbfTreeView.Select** "item1;item2;item3;" を使用する代わりに，以下を使用します。

  ```
  WbfTreeView.Expand "item1"
  WbfTreeView.Expand "item1;item2"
  WbfTreeView.Select "item1;item2;item3;"
  ```

- 複数の統一されたスタイルがあるカレンダーを持つ .NET Web Forms アプリケーションの使用は，完全にはサポートされていません。
- WbfCalendar オブジェクトの場合，識別プロパティ **Selected Date** と **Selected Range** は，選択モード **none** では常に **none** です。
- WbfCalendar の **Selected Date** および **Selected Range** 識別プロパティの正しい値を取得するには，選択した日付または範囲が該当の Web Forms アプリケーション内で現在表示されている必要があります。
- WbfUltraGrid オブジェクト（Infragistics UltraWebGrid）内の領域グループ化に対する操作はすべて記録されません。
- WbfUltraGrid オブジェクトに対して急速に実行された一連の操作は，記録されない場合があります。

  回避策：記録する操作の数を 1 秒あたり 1 ～ 2 個に制限してみてください。

- WbfUltraGrid のカラム名は，カラム・ヘッダの内部 HTML で構成されるため，無関係な情報を含んでいることがあります。

➤ WbfUltraGrid は，カラムがすでに並べ替え済みでない場合に，カラムの降順の並べ替えに失敗することがあります。

回避策：Sort 呼び出しを 2 つに分割し，最初に昇順で並べ替えてから，次に降順で並べ替えます。次に例を示します。

変更前：

```
WbfUltraGrid("UltraWebGrid1").Sort "Model","Descending"
```

目的

```
WbfUltraGrid("UltraWebGrid1").Sort "Model","Ascending"
WbfUltraGrid("UltraWebGrid1").Sort "Model","Descending"
```

Stingray - 一般的な問題

➤ Stingray サポートの設定をコンピュータ上のすべてのユーザに適用しても，QuickTest を少なくとも 1 回開いたユーザには適用されません。

回避策：QuickTest を少なくとも 1 回開いたユーザには，Stingray サポートの設定をそれぞれ個別に適用します。

➤ Stingray Add-in がロードされている場合，QuickTest は同一アプリケーション内で Unicode と非 Unicode の両方はサポートしません。

Web - 一般的な問題

➤ Microsoft Internet Explorer 8.0 Beta 2 を対象としたテストは，Windows XP および 2003 のみでサポートしています。

➤ QuickTest は，Mozilla Firefox の **ShowModalDialog** コマンドをサポートしていません。

➤ QuickTest は，非 XUL フレームにおける匿名コンテント要素をサポートしていません （Mozilla Firefox の SSL 例外ページのボタンなど）。

インストール，ライセンスおよび設定

本項には，次の項目が含まれています。

➤ 40 ページ「QuickTest Professional - インストール・ユーティリティ」

➤ 42 ページ「Java Add-in - インストール・ユーティリティ」

➤ 43 ページ「Oracle Add-in - インストール・ユーティリティ」

➤ 44 ページ「Terminal Emulator Add-in - インストール・ユーティリティ」

QuickTest Professional - インストール・ユーティリティ

➤『**HP QuickTest Professional インストール・ガイド**』に記載されているように，シート・ライセンスは Windows 2008 サーバではサポートされません。しかし，ライセンス・インストール・ウィザードは，このオペレーティング・システムでも**シート**・ライセンスのオプションを無効にしません。そこでそのオプションを選択すると，ライセンス・キーのインストールは失敗します。

➤ リモート・デスクトップ接続を使用して Windows Vista または 64 ビット対応の Windows XP オペレーティング・システムに接続した場合，シート・ライセンスのインストールを選択したり，QuickTest のライセンス・タイプを**コンカレント**から**シート**に変更したりできません。

回避策：コンピュータ上で直接 QuickTest を開いてライセンス・タイプを変更するか，リモート・コンピュータにアクセスするときにセッションを作成しないコンソールを使用してコンピュータに接続します。

➤『**HP QuickTest Professional インストール・ガイド**』に記載されているように，サイレント・インストールを使用して，インストールされている QuickTest Professional 9.5 をアップグレードする際には，コマンド・ラインの中で TARGETDIR パラメータを使用して，アップグレード・インストールが確実に既存の QuickTest 9.5 と同じフォルダを使用するようにします。

コマンド・ラインで TARGETDIR パラメータを使用せず，QuickTest Professional 9.5 が標準設定以外のフォルダにインストールされていた場合，QuickTest のそれまでの設定は保存されず，インストールが正常に実行されたように見えても，QuickTest が想定しているとおりには動作しないことがあります。QuickTest のインストールの詳細については，『**HP QuickTest Professional インストール・ガイド**』を参照してください。

➤ QuickTest Professional のインストール・ファイルがある場所のパスと QuickTest Professional がインストールされる場所のパスには，英字しか含められません。

➤ HP Functional Testing Concurrent License Server は，NAT（Network Address Translation）の使用はサポートしていません。

➤ デモ・ライセンスの期限がすでに切れており，正式のライセンスがインストールされていない旧バージョンの QuickTest Professional に，デモ・ライセンスを使って QuickTest Professional を上書きインストールすることはできません。

- LSHOST 変数が別のドメインのサーバを指すように設定されていた場合，サーバ・ユーティリティ **lsmon.exe** は予期しない動作をすることがあります。
- コンカレント・ライセンスにはデモ・ライセンスは含まれていません。また，HP Functional Testing Concurrent License Server とライセンス・キーがインストールされていないと動作しません。
- 管理者権限のないユーザとしてマシンにログインした場合，ライセンスの種類をシート・ライセンスからコンカレント・ライセンスに変更することも，その逆の変更をすることもできません。

  回避策：ライセンスの種類を変更するには，管理者権限でマシンにログインします。
- QuickTest Professional フローティング・ライセンス・サーバ・バージョン 6.0 をアンインストールすると，起動中に QuickTest がライセンスの取得に失敗する場合があります。

  回避策：QuickTest Professional フローティング・ライセンス・サーバ・バージョン 6.0 をアンインストールする前に **lservrc** ファイルをバックアップし，このファイルを新しいインストール・パスにコピーするか，ライセンス・サーバのインストール後にライセンスの文字列を再インストールします。
- コンピュータ上にバージョン 6.0.0.8169 の **Pdm.dll** がある場合，セットアップ・プログラムはそれを QuickTest Professional のインストール時に検出し，Microsoft のサイトから正しい DLL をダウンロードするよう求めます。詳細については，http://support.microsoft.com/kb/q293623/ を参照してください。
- ネットワーク・ドライブへの QuickTest Professional のインストールはサポートされていません。
- ターミナル・サーバ（Windows 2003 Server など）を使用して作業をする場合には，コンカレント・ライセンスを使用して QuickTest に接続する必要があります。シート・ライセンスとデモ・ライセンスはターミナル・サーバではサポートされません。

  回避策：ターミナル・サーバにコンカレント・ライセンス・サーバをインストールしてからそれに接続するか，別のコンピュータにインストールされているコンカレント・ライセンス・サーバに接続します。
- Windows 2003 で QuickTest Professional をアンインストールすると，「バックアップ・ファイルの削除」の段階でアンインストール・プログラムが応答を停止することがあります。

回避策：Windows タスク・マネージャから **msiexec.exe** と **lkernel.exe** プロセスを終了させ，コンピュータを再起動します。インストール中にこの問題が発生したら，Windows タスク・マネージャから **msiexec.exe** と **lkernel.exe** プロセスを終了させ，セットアップ（インストール）・プログラムを再実行します。

➤ Windows 2003 で QuickTest Professional をアンインストールすると，アンインストールが正常終了しないことがあります。このとき，アンインストール・プロセスが完了しなかったために QuickTest Professional を手動でアンインストールする必要があるというメッセージが表示されます。この動作は，InstallShield Developer 8.02 の不具合が原因で生じます。詳細については，http://support.installshield.com/kb/view.asp?articleid=Q111000 を参照してください。

回避策：アンインストールの実行後に，QuickTest Professional のインストール先フォルダに残っているファイルをすべて手作業で削除します。

➤ QuickTest Professional 6.5.x アドインが，QuickTest Professional 8.0.x 以降に直接インストールされている場合（かつ，以前に QuickTest Professional 6.5.x にインストールされていない場合），アンインストール・プログラムはこれらのアドインをアンインストールしません。

回避策：アンインストールの実行後に，QuickTest Professional のインストール先フォルダに残っているファイルをすべて手作業で削除します。

Java Add-in - インストール・ユーティリティ

➤ WinRunner Java/Oracle Add-in 7.6 を使用する場合は，デュアル・エージェント・パッチ（インストール用 DVD の **WR76DualAgentPatch** フォルダにあります）をインストールする必要があります。

注：WR76DualAgentPatch パッチは，QuickTest Professional Java Add-in をインストールした後でインストールしてください。

➤ Windows XP および Windows 2003 では，QuickTest Professional Java Add-in をインストールした後，コンピュータを再起動するたびに Windows リモート・シェル・サービス（**rshsvc.exe**）が失敗して，エラー・メッセージが表示される場合があります。これが発生するのは，リモート・シェル・サービスが自動的に実行されるように設定されている場合だけです。

回避策：リモート・シェル・サービスの自動起動を無効にするか，次の各変数を［環境変数］ダイアログ・ボックスの［システム環境変数］セクションから［ユーザ環境変数］セクションへ移動します。_classload_hook，_JAVA_OPTIONS，IBM_JAVA_OPTIONS，および MSJAVA _ENABLE _MONITORS

Oracle Add-in - インストール・ユーティリティ

➤ WinRunner Java/Oracle Add-in 7.6 を使用する場合は，デュアル・エージェント・パッチ（インストール用 DVD の **WR76DualAgentPatch** フォルダにあります）をインストールする必要があります。

➤ QuickTest Professional Oracle Add-in をインストールした後で Oracle JInitiator 1.1.x をインストールした場合は，新しくインストールされた JInitiator のバージョンで実行されるアプリケーションをテストするように QuickTest を修正する必要があります。詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

注：JInitiator 1.1.x 以外の新しい Oracle 環境をインストールした場合は，QuickTest Professional Oracle Add-in を再インストールしたり設定し直したりする必要はありません。

➤ Windows XP および Windows 2003 では，Oracle Add-in をインストールした後，コンピュータを再起動するたびに Windows リモート・シェル・サービス（**rshsvc.exe**）が失敗して，エラー・メッセージが表示される場合があります。これが発生するのは，リモート・シェル・サービスが自動的に実行されるように設定されている場合だけです。

回避策：リモート・シェル・サービスの自動起動を無効にするか，次の各変数を［環境変数］ダイアログ・ボックスの［システム環境変数］セクションから［ユーザ環境変数］セクションへ移動します。_classload_hook，_JAVA_OPTIONS，IBM_JAVA_OPTIONS，および MSJAVA _ENABLE _MONITORS

Terminal Emulator Add-in - インストール・ユーティリティ

➤ QuickTest Professional Terminal Emulator Add-in がインストールされてロードされているのに，そのコンピュータにターミナル・エミュレータがインストールされていない場合には，次のようなメッセージが表示されます。**QuickTest ターミナル エミュレータのサポートが正しく設定されていません。コンピュータにターミナル エミュレータがインストールされていないか、HLLAPI DLL が見つかりませんでした。**.」

回避策：QuickTest を開くときに，アドイン・マネージャで［**ターミナル エミュレータ**］チェック・ボックスの選択を解除します。

注：このメッセージが表示されないようにするには，エミュレータの設定を調整します。詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

➤ HLLAPI をサポートしていないエミュレータや，テキストのみの HLLAPI 操作をサポートするように設定されたエミュレータを使用する場合には，エミュレータの設定を行った後でターミナル・エミュレータ・ウィンドウのサイズを変更しないでください。

➤ Hummingbird HostExplorer ターミナル・エミュレータまたはパッチをインストールするときには，QuickTest Professional が閉じていることを確認してください。

➤ 別のウィンドウに開くように設定された NetManage Web-To-Host Java クライアント・セッションのサポートを有効にするには，［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**ターミナル エミュレータ**］＞［**設定を調整**］＞［**オブジェクトの認識設定**］＞［**タイトル バー プレフィックスに基づいてエミュレータ ウィンドウを認識する**］オプションを使って，セッション・ウィンドウのタイトルを指定します。

ヒント：別の設定に切り替えるときに，この値をクリアしなければならない場合があります。

➤ ターミナル・エミュレータ設定ウィザードを使って NetManage RUMBA Web-to-Host の画面サイズを設定する場合，［**領域をマーク**］オプションを使ってエミュレータ・ウィンドウの上に描画することはできません。

回避策：画面のテキスト領域位置を手動で設定します。

テスト・ドキュメントの作成，編集，および実行

本項には，次の項目が含まれています。

➤ 46 ページ「一般的な問題」

➤ 52 ページ「ActiveX 関連の問題」

➤ 53 ページ「Delphi および Delphi Add-in Extensibility 関連の問題」

➤ 54 ページ「Java 関連の問題」

➤ 55 ページ「.NET Web Forms 関連の問題」

➤ 55 ページ「Oracle Applications 関連の問題」

➤ 56 ページ「PowerBuilder 関連の問題」

➤ 56 ページ「SAP - Windows ベースの SAP アプリケーションのテスト」

➤ 60 ページ「SAP - Web ベースの SAP アプリケーションのテスト」

➤ 61 ページ「Siebel 7.7.x 以降 - テストとコンポーネントの作成と実行」

➤ 63 ページ「Siebel 7.0.x および 7.5.x - テストとコンポーネントの作成と実行」

➤ 65 ページ「標準 Windows オブジェクト - テストとコンポーネントの作成と実行」

➤ 66 ページ「Stingray アプリケーション - テストとコンポーネントの作成と実行」

➤ 69 ページ「ターミナル・エミュレータ - テストとコンポーネントの記録と実行」

➤ 74 ページ「Visual Basic アプリケーション - テストとコンポーネントの作成と実行」

➤ 74 ページ「Web オブジェクト - テストとコンポーネントの作成と実行」

➤ 79 ページ「Web サービス - テストとコンポーネントの作成と実行」

一般的な問題

- QuickTest は，テスト対象アプリケーションのプロセスへのアクセスが限定されている場合，ステップの記録も実行もできません。

  回避策：

  - テスト対象アプリケーションが確実に QuickTest と同じ Windows ユーザによって開始されるようにします。
  - ユーザまたはテスト対象アプリケーションが QuickTest によるアプリケーション・プロセスへのアクセスを能動的に妨げることのないようにします。

- 規模の大きい実行結果レポートを DOC 形式にエクスポートすると，Microsoft Word XP または 2003 でその文書が開くまでに長い時間を要する場合があります（この問題は，レポートを Microsoft Word 2007 で開く場合には発生しません）。

- デバッグ・ビューアの［コマンド］タブにおける **LoadAndRunAction** ステートメントの使用はサポートされていません。

- テストが非常に短い場合または［**ローカル システム監視の有効化の間隔：__ 秒**］オプションに対して指定した秒数が大きい場合，ローカル・システム監視のオプションを有効にしてテストを実行した後，実行結果ツリー内の最後のいくつかのステップの 1 つを選択すると，［システム モニタ］タブの［**現在のステップ**］インジケータがグラフの外の位置（右側）にジャンプすることがあります。

  回避策：テストの終わりに **Wait** ステートメントを追加するか，［**ローカル システム監視の有効化の間隔：__ 秒**］オプションに指定する秒数を小さくします。

- キーワード・ビューで **.Object** プロパティを使用して作業をする場合，QuickTest がステップの IntelliSense 情報を取得するまで長い時間を要することがあります。

  回避策：**.Object** プロパティを使用して作業をするときは，エキスパート・ビューを使用するようにします。

- 回復シナリオによって参照される関数ライブラリ・ファイルが見つからない場合，［欠落リソース］表示枠には欠落しているファイルは示されませんが，QuickTest はこの問題を，［**テストをリソースと保存**］オプションを選択したときに警告します。

回避策：この警告は，保存には問題を及ぼさないので，操作を続行できます。ファイルをローカルに保存した後，欠落している関数ライブラリ・ファイルをローカルに保存し，回復シナリオの関数ライブラリへの関連付けを，ローカルにある関数ライブラリのコピーに手動でリセットします。

➤ メンテナンス・モードでの実行時に，アプリケーションに存在しないオブジェクトに関するプログラム記述がステップに含まれている場合，問題があることをメンテナンス・モードが示すまでに時間を要することがあります。オブジェクトをポイントするオプションを使用した場合，後でメンテナンス・モードで改めて開くときに時間を要することがあります。

➤ メンテナンス実行ウィザードがオブジェクトを見つけられず，そのオブジェクトのテスト・オブジェクト記述に必須プロパティも補足プロパティもない場合（つまり，Browser テスト・オブジェクトのように，その序数識別子でのみ識別される場合），オブジェクトをポイントしたとき，ウィザードは問題を修正することができず，ポイントしたオブジェクトが QuickTest の識別できないオブジェクトと似たテスト・オブジェクト記述を持っている旨を知らせるメッセージを表示します。

回避策：このテスト・オブジェクト記述を修正するには，［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックス（オブジェクトがローカル・リポジトリにある場合）またはオブジェクト・リポジトリ・マネージャ（オブジェクトが共有オブジェクト・リポジトリにある場合）の［**アプリケーションから更新**］オプションを使用します。

➤ Windows の画面の設定で大きいフォントを使用するように設定している場合，メンテナンス実行ウィザードの画面のテキストが切り詰められることがあります。

➤ メンテナンス実行ウィザードがアプリケーション内でオブジェクトを見つけられなかったときに，その置き換えを行うために別のオブジェクト・クラスをユーザがポイントすると，メンテナンス実行ウィザードはそのオブジェクトとその標準設定のメソッドを使用したステップを追加することを提案します。しかし，ウィザードはそのステップにメソッド引数を挿入しません。ステップのメソッドに必須の引数があるにもかかわらず，メンテナンス実行ウィザードが提示したステップを，変更を加えずに受け入れた場合，そのステップは実行時に失敗します。

回避策：ステップに対して有効な引数を指定します。

- **RunAction** ステートメントを使用するときは，ステートメントにアクション名を明示的に指定する必要があります。変数を使用することはできません。たとえば，次のように指定する必要があります。

  RunAction="Action1[ExternalTest]"
  次のように指定してはなりません。
  aName="Action1[ExternalTest]"
  RunAction aName

- 既存のテストのコピーを（ファイル・システムまたは Quality Center に）作成した場合，両方のテストの同じアクションに対する呼び出しを同じテストに含めることはできません。

  回避策：テストのコピーを作成するのではなく，［**名前を付けて保存**］を使用してテストの複製を作成します。

- QuickTest が，開かれている任意の Windows ベース・アプリケーションを対象にテストの記録と実行を行うように設定されている場合（［**オートメーション**］＞［**記録と実行環境設定**］＞［**Windows アプリケーション**］），Microsoft Script Debugger および Microsoft Visual Studio のデバッガを実行することはできません。

  回避策：次のいずれかを行います。

  - **mercury.ini** ファイル（**%SYSTEMROOT%** にあります）の **MicIPC** セクションの中で，次のエントリを追加します。

    devenv.exe=0
    msdev.exe=0
    msscrdbg.exe=0

  - QuickTest Professional を実行しているユーザ・アカウントとは別のアカウントを使用してデバッグ・プログラムを開きます。

- 関数ライブラリ・ファイル以外のリソース・ファイルを（ファイル・システムまたは Quality Center から）開いたり関連付けたりするときに，ファイルの拡張子の 1 文字以上が大文字になっている場合，QuickTest はその種類のファイルを開けないというメッセージを表示します。

  回避策：ファイル拡張子を小文字に変更し，ファイルの関連付けを改めて行います。

- コンピュータにプリンタが少なくとも 1 台インストールされていなければ，［テスト結果］ウィンドウの［レポートをエクスポート］オプションは使用できません。

- **RegisterUserFunc** ステートメントを使って，既存のテスト・オブジェクト・メソッドをオーバライドするユーザ定義関数を登録することができます。また，QuickTest Professional Extensibility SDK を使って作成されたテスト・オブジェクト・メソッドをオーバライドするためにユーザ定義関数を登録することもできます。このようなテスト・オブジェクト・メソッドをオーバライドする場合，そのユーザ定義関数はオーバライドする対象のテスト・オブジェクト・メソッドを（再帰的に）呼び出してはなりません。
- ［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスの［Web］タブで［**開かれているすべてのブラウザでテストを記録して実行する**］を選択する場合，必ず QuickTest Professional を起動してからブラウザを開くようにします。そうしなければ，QuickTest はテストの記録と実行を正しく行いません。
- ステップ・ジェネレータでは，オブジェクトを返す操作を追加する場合，テストまたはコンポーネントでの代入で **Set** ステートメントが見つからないと，実行セッションが失敗します。
- Quality Center テスト・セットから，または QuickTest オートメーションを使って QuickTest テストを実行すると，［**実行セッション中にエラーが発生した場合**］設定（［**ファイル**］＞［**設定**］＞［**実行**］ノード）は無視されます。その代わり，QuickTest は自動的にエラーが発生した次のステップを続行します。この設定を変更する場合は，HP ソフトウェア・サポートに連絡してください。
- QuickTest は［スタート］メニューからの Windows ヘルプの起動を記録しません。
- 記録中にウィンドウのタイトルが変更されると，QuickTest は，テストまたはコンポーネントの実行中にそのウィンドウ内のオブジェクトの認識に失敗することがあります。

  回避策：［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックス内で，ウィンドウのテスト・オブジェクト記述からテキスト・プロパティを削除します。
- 実行セッション中にエラーが発生すると，結果に複数のエラー・ノードができます。
- **GetItemProperty** メソッドは，WinComboBox，WinList，WinListView，VbComboBox，VbList，および VbListView テスト・オブジェクトに対して，テキスト・プロパティ値を正しく返さないことがあります。

  回避策：**GetItem** メソッドを使用して，これらのテスト・オブジェクトからテキスト・プロパティの値を取得します。

- **For Each** ステートメントの使用前にコレクションが直接取得された場合，**ParameterDefinitions** コレクションを使用して反復する **For Each** ステートメントを含むテストまたはコンポーネントを実行すると，失敗することがあります。

  回避策：**For** または **While** などのほかの VBScript ループ・ステートメントを使用します。

- QuickTest 9.0 より前のバージョンでは，リソースは「**¥..**」で始まるパスで指定し，これが相対パスとみなされました。QuickTest 9.0 以降のバージョンでは，円記号が現在のドライブのルート・フォルダを示し，「**¥..**」で始まるパスは完全パスと見なされます。

  QuickTest 9.0 より前のバージョンにおいて「**¥..**」で始まるパスを定義した場合には，円記号（**¥**）を削除してパスが標準の相対パスになるように変更してください。

- **VBScript On Error Resume Next** ステートメントを使用すると，QuickTest に組み込まれているエラー処理メカニズムが妨害される可能性があるため，このステートメントの使用はお勧めしません。

  回避策：［テストの設定］ダイアログ・ボックスの［実行］表示枠を使用して，QuickTest のエラー処理を実行するか，自動化機能を使用して **RunSettings** オブジェクトの **OnError** プロパティを使用します。

- **On Error Resume Next** ステートメントを含んでいるテストが，別の **On Error Resume Next** ステートメントを含んでいない関数を呼び出す場合，関数内でエラーが発生しても VBScript エラー処理は適用されません。QuickTest 9.0 より前のバージョンでは，このような場合でも **On Error Resume Next** ステートメントは正しく動作していました。

  回避策：QuickTest の組み込みエラー処理を使用するか，必要な場合，関数のボディの中の **On Error Resume Next** を使用します。

- VMware の使用時に，**MouseMove** メソッドが予期しない振る舞いをすることがあります。

  回避策：次の行を VMware 設定ファイル（**＜ VM 名＞ .vmx**）に追加します：
  vmmouse.present = "FALSE"

  詳細については，http://www.vmware.com/support/kb/enduser/std_alp.php にある VMware のサポート記事の 1691 番「Unexpected Cursor Behavior in Windows Virtual Machine with "Snap To" Mouse Control Panel Option Enabled」を参照してください。

- Remote Desktop Connection セッション（RDC）または Citrix を使用しているリモート・マシン上で QuickTest を実行している場合，実行セッション時に Remote Desktop Connection セッションが最小化された場合，あるいは，アプリケーションのテストを行っているコンピュータがログオフまたはロックされた場合，次の問題が生じることがあります。
  - テストまたはコンポーネントの実行セッションが失敗する
  - キーボードまたはフォーカス操作を含むステップが失敗する
  - テスト結果の静止画像キャプチャまたは画面レコーダ，あるいはその両方に黒い画面が表示される
  - デバイス・レベル再生がマウス（ブラウザ・イベントではなく）を使ってマウス操作を実行するように設定されているステップが失敗する （デバイス・レベル再生を設定するには，**Setting.WebPackage("ReplayType")** ステートメントを使用するか，［詳細 Web オプション］ダイアログ・ボックスで［**再生の種類**］オプションを設定します。）

    回避策：テストまたはコンポーネントの実行に Citrix または Remote Desktop Connection セッションを使用している場合，セッション・ウィンドウは最小化しないで，アプリケーションのテストを行っているコンピュータがログオフしたりロックされたりしないようにします。
- 新しいアクションへの呼び出しを作成するときに，**Global** という名前を使用することはできません。Global という名前のアクションを作成すると，識別プロパティをパラメータ化するときに，ローカル・データ・シートまたはグローバルのデータ・シートを選択できなくなります。
- VBScript クラスを定義した場合，そのクラスは，それを定義した QuickTest アクションまたは関数ライブラリの中においてのみ呼び出せます。

ActiveX 関連の問題

- 次の ActiveX テスト・オブジェクト・メソッドに対してカラムを名前で指定した場合，テストの実行時にエラーが発生します：**ActivateCell**，**ActivateColumn**，**SelectCell**，**SetCellData**，**SelectColumn**。

  回避策：これらのメソッドを呼び出す場合，カラムを番号で指定します。

- ActiveX コントロール内に Java オブジェクトの階層が混じっている Web アプリケーションを対象にエキスパート・ビューでステップを挿入するとき，ActiveX の引数に対する引数値の候補を取得するまでに QuickTest が長い時間を要することがあります。

  回避策：これらのステップは，（動的な候補地列挙機能が使用されない）キーワード・ビューを使用して挿入します。

- Netscape ブラウザ内の ActiveX コントロールはサポートされていません。

- QuickTest Professional が Web ページ内の ActiveX コントロールを認識しない場合は，Microsoft Internet Explorer ブラウザでセキュリティのレベルを下げます。

- ActiveX コントロールの内部プロパティが，QuickTest Professional によって作成された ActiveX プロパティと同じ名前である場合，そうしたプロパティの取得と検証で問題が生じることがあります。

  回避策：ActiveX コントロールの内部プロパティには，**Object** プロパティを使ってアクセスできます。

- Apex，DataBound，および Sheridan グリッドの行およびカラム位置に対して実行されるメソッドは，テーブル内の絶対位置ではなく，表示されている位置の値を返します。

  回避策：記録中にスクロール・バーを使用して，必要なセルを表示します。

- ActiveX コントロールを対象とした記録を行うときには，マウスを動かす前に，記録されたステップが表示されるのを待ってください。マウスを動かすのが早すぎると，そのステップの ActiveScreen が破損することがあります。

- **AcxTable.RowCount** メソッドは，Microsoft Data Bound グリッド・コントロールではサポートされていません。

- QuickTest は，**x** 座標，**y** 座標，**height**（高さ），**width**（幅）など，ウィンドウレスの ActiveX コントロールの内部プロパティの一部を正しくキャプチャしないことがあります。

- ウィンドウレスの ActiveX コントロールを対象とした記録では，テストまたはコンポーネントにステップが追加される場合があります（たとえば，AcxRadioButton オブジェクトの **Set** メソッドに **Click** メソッドが追加される）。これらの追加ステップによって実行セッションが失敗することはありません。
- **Drag** および **Drop** 操作は，ウィンドウレスの ActiveX コントロールではサポートされていません。
- QuickTest は，プログラムによる記述で識別されたウィンドウレスの ActiveX コントロールの認識に失敗することがあります。

  回避策：プログラムによる記述に Windowless=True を追加します。

  例：

  ```
  set myButton = Description.Create
  myButton("progid").Value = "Forms.CommandButton.1"
  myButton("Windowless").Value = True
  Dialog("ActiveX Collection Client").AcxButton(myButton).Click
  ```

Delphi および Delphi Add-in Extensibility 関連の問題

- ［オブジェクト認識］ダイアログ・ボックスを使用して，Delphi Add-in Extensibility を使用して作成された Delphi テスト・オブジェクトに変更を加えた場合，それらの変更は現在の QuickTest セッションのみに影響します。QuickTest を閉じて再度開いたときに，変更が維持されません。

  回避策：変更は，テスト・オブジェクトを定義する Delphi Add-in Extensibility テスト・オブジェクト設定ファイルに加えるようにします。Delphi Add-in Extensibility ファイルは，**＜ QuickTest のインストール・フォルダ＞ ¥bin** に格納されています （Quality Center で作業をしている場合：**＜ QuickTest Add-in for Quality Center インストール・フォルダ＞ ¥dat¥Extensibility¥Delphi**）。Delphi Add-in Extensibility サポート・セットがサードパーティによって開発されたものである場合，そのサードパーティに連絡してこの変更のための支援を受けることをお勧めします。
- Delphi Add-in グリッド拡張サンプル・プロジェクト **DelphiGridExtSample** を Delphi Studio で開くと，「Class TStringDrawGrid not found」エラー・メッセージが表示されます。

回避策：**DelphiGridExtSample** プロジェクトを開く前に，Delphi Studio で **TStringDrawGrid** カスタム・コントロールを登録します。これを行うには，次の手順を実行します。

a Delphi Studio で，［**Component**］＞［**Install Component**］を選択します。［Install Component］ダイアログ・ボックスが表示されます。

b［Unif file name］ボックスに，**StringDrawGrid.pas** ファイルのフル・パスを指定します。ファイルは，**＜ QuickTest Professional インストール・フォルダ ¥samples¥DelphiGridExtSample¥Application** にあります。

c［**OK**］をクリックします。

d 確認ダイアログ・ボックスまたは情報ダイアログ・ボックスが表示された場合には，［**はい**］または［**OK**］を必要に応じてクリックします。

e［Package］ダイアログ・ボックスが開きます。

注：この時点で，Delphi Studio が［Package］ダイアログ・ボックスではなく，編集のために **StringDrawGrid.pas** ファイルを開いた場合，手順 a ～ d を繰り返します。

---

f［**Compile**］をクリックします。

g［Package］ダイアログ・ボックスを閉じ，保存の確認を求めるボックスが表示されたら［**はい**］をクリックします。

h **DelphiGridExtSample** を開きます。プロジェクトがエラーなく開きます。

Java 関連の問題

➤ QuickTest は，JFC Java リスト・コントロールを対象とした **MouseDrag** ステップを記録しません。

回避策：**MouseDrag** ステップを手動で入力します。

➤ QuickTest は，SWT オブジェクトを対象とした **MouseDrag** ステップの記録と実行ができません。

回避策：**MouseDrag** ステップを手動で入力します。

➤ Java オブジェクトのオブジェクト識別プロパティを更新した場合，その変更は QuickTest を起動しなおした後にのみ有効になります。

.NET Web Forms 関連の問題

- QuickTest は，一部の Web Forms グリッドを WbfGrid でなく WebTables テスト・オブジェクトとして認識することがあります。

  回避策：次のいずれかを行います。

  - 次のいずれかの条件に適合するように Web Forms コントロールに変更を加えます。
    - **class** 属性に DataGrid という文字列を含める。
    - **id** 属性に DataGrid または GridView の少なくともいずれか 1 つの文字列を含める。
  - QuickTest が Web Forms テーブル・コントロールを DataGrid または GridView として識別する（そして WbfGrid テスト・オブジェクトとして学習する）ルールを変更します。

    これらのルールは，**＜ QuickTest インストール・フォルダ＞¥dat¥WebFormsConfiguration.xml** に定義されています。

    このファイルには，その形式と使用法を説明するコメントが含まれています。

- .NET Web Forms オブジェクトを含んだテストを記録した場合，そのテストは Microsoft Internet Explorer に対してしか実行できません。

Oracle Applications 関連の問題

- Oracle アプリケーションをテストしているときに，表示されていないカラムの値をテーブル・チェックポイントがキャプチャしない場合があります。

  回避策：テーブル・チェックポイントを作成する前に，テーブルをスクロールさせて最後のカラムが表示されるようにします。

PowerBuilder 関連の問題

➤ PowerBuilder アプリケーションのツールバーを対象とした学習および記録で，QuickTest は PbToolbar テスト・オブジェクトを記録しなくなりました。代わりに，**PbObject.Click** オブジェクトを記録します。PbToolbar テスト・オブジェクトは，QuickTest のダイアログ・ボックスおよびドキュメントには含まれなくなりました。

過去のオブジェクト・リポジトリに存在する PbToolbar テスト・オブジェクトは認識され，サポートされますが，**CheckItem**，**GetContent**，**GetItem**，**GetItemProperty**，**GetItemCount**，**GetSelection**，**Press**，**ShowDropDown**，および **WaitItemProperty** などのツールバー固有のメソッドは，このオブジェクトについてサポートされません。

ツールバー・ステップに対して PbObject テスト・オブジェクトを使用するようにオブジェクト・リポジトリおよびテストを更新する必要があります。

➤ あるステップがセルの値を設定し，その次のステップが同じセルに対する **PBDataWindow.GetCellData** ステップである場合，その GetCellData ステップは直前のステップで設定された値ではなく古い値を返します。

回避策：DataWindow コントロールは，フォーカスが変更されたときにだけセルの値を更新します。この問題を解決するには，フォーカスを別のセルに移すステップ（SelectCell ステップなど）を GetCellData ステップの前に挿入します。

SAP - Windows ベースの SAP アプリケーションのテスト

➤ ツールバー・コントロールを使用する場合は，次のガイドラインを考慮してください。

➤ 独立したツールバー・コントロール（グリッドやほかのオブジェクトの一部ではないもの）は，SapGuiToolbar テスト・オブジェクト（**GuiComponentType** は 202）によってサポートされますが，これらは独立したオブジェクトなので，オブジェクト・スパイによって認識されます。

ツリー・コントロールには関連付けられたツールバーはありません。ツリー・コントロール上に表示されるツールバーは独立したツールバーとして認識され，前述のようにサポートされます。

- ➤ グリッド・コントロール内のツールバーは，SapGuiToolbar テスト・オブジェクト（GuiComponentType は 204）によってサポートされます。しかし，これらのツールバーはグリッドの一部なので，オブジェクト・スパイでは認識されません。ActiveScreen から［**リポジトリに追加**］オプションを使って，または［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックスの［**オブジェクトの追加**］オプションを使って，これらのツールバーをオブジェクト・リポジトリに追加することはできません。これらのツールバーをオブジェクト・リポジトリに追加するには，それらを記録します。
- ➤ ほかのコントロール内にあるツールバー（テキスト領域コントロール内のツールバーなど）はサポートされません。

- ➤ SAP ウィンドウ内の Microsoft Office コントロールはサポートされません。
- ➤ F4 キーを押すステップを記録し，そのキーを押した結果として複数のフィールドに新しい値が設定される場合，ステップが記録されるのは，そこから F4 キーが押されたフィールドについてだけであり，実行時に値が設定されるのはそのフィールドだけです。
- ➤ **SAPGuiTextArea** オブジェクトに対しては，右クリック操作はサポートされません。
- ➤ SAP Editor コントロールはサポートされません。
- ➤ SAP Gantt グラフ（SAP Bar Chart）および Image/Picture コントロールは，SAP Gui for Windows 代替記録メカニズムによってサポートされます。これらのコントロールに関する現在のサポートは限られています。SAP Windows テスト・オブジェクトに対する標準の記録動作をオーバライドしたり，ほかの SAP Gui for Windows オブジェクトのための制限された記録サポートを追加したりすることができます。
- ➤ SAP Gui for Windows アプリケーションでのドラッグ・アンド・ドロップ操作は，QuickTest が開かれると無効になります。
- ➤ SAP Gui for Windows アプリケーションに埋め込まれた HTML 要素に対してテストを実行すると，「**オブジェクトが無効になっています。**」エラーが発生することがあります。これは，実行されるテストに対するその HTML コントロールの準備ができていない場合に起こります。

  回避策：テストが正常に実行されるようにするために，**SAPGuiSession.Sync** ステートメントや **Wait** ステートメントなどの **Sync** ステートメントをスクリプトに追加します。

➤ 標準では，SAP Gui for Windows アプリケーションに埋め込まれた HTML 要素に対するステップの記録と実行は，QuickTest Professional Web Add-in を使って実行されます。場合によっては，スクリプト内の SAP Scripting API を使用する SAP アドイン・ステップの前に，Web アドインを使って記録されたステップが挿入されることがあります。

回避策：SAP Gui アプリケーションに埋め込まれた HTML 要素を SAP スクリプティング・インタフェースを使って記録するというオプションを使用します。それには，［オプション］ダイアログ・ボックスの［SAP］表示枠で（［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**SAP**］ノード），［**HTML 要素の記録に SAPGui Scripting Interface を使う**］チェック・ボックスを選択します。その後，テストを閉じて再び開き，記録を再開します。詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

➤ アクションのコピーやアクションへの呼び出しを挿入し，［アクションの呼び出しの挿入］ダイアログ・ボックスの［**パラメータ データ**］セクションで［**ローカルおよび編集可能なコピー**］を選択した場合，QuickTest はそのアクションのデータ・シートをテストにコピーします。ただし，呼び出されるアクションまたはコピーされたアクションに **SAPGuiTable.Input**，**SAPGuiGrid.Input**，または **SAPGuiAPOGrid.Input** ステートメントが含まれている場合，対応する入力データ・シートがアクションとともにデータ・テーブルにコピーされることはありません。

回避策：**Datatable.AddSheet** ステートメントと **Datatable.ImportSheet** ステートメントを挿入して実行し，アクションの **Input** メソッドが参照しているシートをインポートします。データ・シートの名前を，対応する **Input** ステートメントで指定された名前と正確に一致させてください。

➤ SAPGuiTable **Input** メソッドを使用する場合は，現在のテーブルのスクロール・モードをチェックしてください。テーブルの現在のビューに表示されている行数より多い行を含んだデータ・テーブル・シートを持つテーブルをパラメータ化した場合，QuickTest はテスト実行中にテーブルを下へスクロールしてデータ・シートからの行を挿入しようとします。QuickTest は，テーブルの行をスクロールする方法を 2 つサポートしています。ENTER キーを押す方法と，PAGEDOWN キーを押す方法です。標準設定では，Add-in for SAP solutions は PAGEDOWN を必要に応じて試みます。**Input** メソッドの 2 番目の引数を使用して，必要なモードを設定することができます。

詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

- SAP Enterprise Portal 環境では，テスト実行中に SAP Web 環境と SAP Windows 環境を切り替えるときに，同期の問題が発生する場合があります。

  回避策：Web ステップと Windows ステップの間に，**WaitProperty** ステートメントか **Wait** ステートメントを追加します。

- QuickTest は，; 文字を含んだ SAP ツリー・ノードに対するステップを実行できません。

- QuickTest Professional Add-in for SAP Solutions は，SAP Gui for Windows セッションに対するテストを記録および実行するために，SAP Logon または SAP Logon Pad アプリケーションに接続します。デスクトップ上で SAP Logon プロセスと SAP Logon Pad プロセスの両方が使用されている場合，QuickTest Professional は最後に起動された方のプロセスに接続します。

- ［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスの［SAP］タブを使用して，目的の SAP Gui for Windows アプリケーションを開くよう QuickTest を設定します。この目的では，このダイアログ・ボックスの［Windows アプリケーション］タブは使用しないでください。

  詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

- セキュリティ上の理由から，SAP Scripting API はパスワードの記録を妨ぎます。パスワード・ボックスにパスワードを挿入する操作を記録すると，QuickTest はメソッドの引数値としてアスタリスク（****）を使用して **Set** ステートメントを記録します。

  回避策：記録セッションではパスワードを通常どおり記録します。記録セッションが完了してから，**SetSecure** メソッドを使用するようにパスワード・ステップを変更し，暗号化したパスワード値を入力するか，値をパラメータ化します。

  詳細については，『**HP QuickTest Professional Object Model Reference**』（英語版）の **SAP Windows** の項（［**ヘルプ**］＞［**QuickTest Professional ヘルプ**］＞［**Object Model Reference**］＞［**SAP Windows**］）を参照してください。

- QuickTest Professional Add-in for SAP Solutions は，SAP GUI for Windows アプリケーションが使用する標準の Windows ダイアログ・ボックス（［ファイルを開く］ダイアログ・ボックスや［名前を付けて保存］ダイアログ・ボックスなど）を自動的には記録しません。SAP Scripting API がこれらのダイアログ・ボックスをサポートしないからです。これは，SAP Gui for Windows を GuiXT とともに使用しているときに起きることがあります。

回避策：標準 Windows 記録モードに切り替えて（［**オートメーション**］＞［**標準の Windows の記録**］を選択するか，［**標準の Windows の記録**］ツールバー・ボタンをクリックします），これらのオブジェクトを記録します。代わりに，低レベルの記録を使ってこれらのオブジェクトを記録するか，プログラム的記述を使ってこれらのオブジェクトに対するステップを実行するという方法もあります。

注：標準 Windows コントロールに対して操作を実行した**後で標準の Windows の記録** モードに切り替えると，場合によっては QuickTest と SAP アプリケーションが両方とも応答しなくなることがあります。これを防ぐには，SAP アプリケーション内の標準 Windows コントロールを開く操作を実行する**前に標準の Windows の記録**モードに切り替えてください。

SAP - Web ベースの SAP アプリケーションのテスト

SAP Enterprise Portal

- iView オプションに対する操作と SAP Enterprise Portal のタイトル・バー内にあるオブジェクトに対する操作は，iView オブジェクトに対する SAP 操作ではなく Frame オブジェクトに対する Web 操作として記録されます。
- 最小化されたり折りたたまれた iView は，正しく認識されない場合があります。
- 場合によっては，テスト実行中に複数のブラウザが開いているときに，QuickTest が一部のオブジェクトを正しく識別できないことがあります。

  回避策：［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックスで，Browser テスト・オブジェクトの［**スマート認識を有効にする**］チェック・ボックスの選択を解除します。将来のテスト記録のために，［オブジェクトの認識］ダイアログ・ボックスでも Browser テスト・オブジェクトの［**スマート認識を有効にする**］オプションを無効にする必要があります。
- 場合によっては，SAP Enterprise Portal 内のフレームが iView オブジェクトではなく Web Frame オブジェクトとして認識されることがあります。その一部のケースでは，フレーム名が動的に生成されています。Web Frame オブジェクトはオブジェクトを識別するために **name** プロパティを使用するので，テストの実行時に QuickTest がオブジェクトを認識できるようにするために，記録された **name** の値を修正して，適切な正規表現を使用するようにしなければなりません。

SAP Gui for HTML - Internet Transaction Server（ITS）

- SAP Gui for HTML アプリケーションを Windows XP 上でテストする場合は，パフォーマンス向上のために，Windows XP テーマではなく Windows クラシック・テーマを使用することをお勧めします。

- SAP Web テーブル・セル内のオブジェクトに対してオブジェクト・スパイを使用するかチェックポイントを作成しているときに，そのオブジェクトに対してまだクリックが実行されていない場合，QuickTest はそのオブジェクトを WebElement として（適切な SAP Web オブジェクトではなく）認識することがあります。

  回避策：SAP Web テーブル・セル内のオブジェクトに対してオブジェクト・スパイを使用したりチェックポイントを作成したりする前に，そのオブジェクトをクリックします。

- SAP Gui for HTML テーブルのスクロール・バーをドラッグする操作は記録されません。

  回避策：SAP Gui for HTML テーブル内のスクロールは，スクロール・ボタンをクリックすると記録できます。代わりに，ステップ・ジェネレータかエキスパート・ビューを使用して，**SAPTable.Object.DoScroll("up")** または **SAPTable.Object.DoScroll("down")** ステートメントをテストに挿入することもできます。

- 使用するブラウザ・ウィンドウのサイズによっては，ツールバー・ボタンの外見が異なったり，ツールバー・ボタンが表示されたりされなかったりすることがあります。

  回避策：テストを記録するときと実行するときに，ブラウザ・ウィンドウのサイズを同じに保ち，その結果メニューの外見が変わらず維持されるようにします。

- SAP Enterprise Portal iView 内の ITS フレームに対してテストを実行するときに，ITS メニューが正しく動作しない場合があります。

  回避策：iView のサイズを大きくするか，［**オブジェクト同期化のタイムアウト**］の値を増やすか，その両方を行ってから，テストを再び実行します。

Siebel 7.7.x 以降 - テストとコンポーネントの作成と実行

- 一部のオブジェクトは（SmartScript モジュール内など）リポジトリ名プロパティの値を持たないため記録されず，オブジェクト・スパイによっても認識されません。

  回避策：低レベル記録を使用します。

- Gantt グラフ操作と RichText エディタ・ツールバー操作は記録されません。

  回避策：低レベル記録を使用します。

- アポイントメント・カレンダ・オブジェクトが記録されるのは，ActiveX Add-in が有効になっているときだけです。

- アポイントメント・カレンダ内での新しいアポイントメントの作成を記録すると，そのテストまたはコンポーネントは実行時に失敗します。

  回避策：**onkeypress** FireEvent を，WebElement の **Set** ステップの前に手動で追加します。

- ポップアップ・テーブル上で記録されたステップについては，Active Screen は空です。

- SiebList オブジェクトのセル内にある内部オブジェクトには，それらが記録されていても，標準の方法ではアクセスできません。これにより，次のような制限が発生します。

  - テストまたはコンポーネントのスクリプト行に SiebList 内部オブジェクトに対する操作が含まれている場合は，その SiebList オブジェクト全体が強調表示されます。

  - SiebList オブジェクトの **ChildObjects** メソッドは 0 を返します。

  - ［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックスの［オブジェクトの追加］オプションを使用して SiebList 内部オブジェクトをオブジェクト・リポジトリに追加することはできません。

- テストまたはコンポーネントの記録中に警告メッセージが開いた場合（たとえば無効なデータを挿入した場合など），QuickTest がそれらの操作を間違った順序で記録することがあります。

  回避策：記録した後で，テスト内のステップの順序を手動で変更します。

- Siebel 7.7.x およびそれ以降のオブジェクトや，QuickTest 10.00 のリリース後に Siebel によって追加されたメソッドについては，コンテキスト・センシティブ・ヘルプ（F1 ヘルプ）が使用できない場合があります。さらに，これらのオブジェクトやメソッドについては，自動文書（キーワード・ビューの［注釈］カラム内）とステップ・ドキュメント（ステップ・ジェネレータ内）も使用できない場合があります。

Siebel 7.0.x および 7.5.x - テストとコンポーネントの作成と実行

➤ QuickTest は，Siebel アプリケーションでキーボード・ショートカットを使用する場合の記録はサポートしていません。

回避策：Siebel アプリケーションでの記録にはマウスを使用します。

➤ ブラウザ・セッション中に［**検索**］アイコンを初めてクリックすると，ほかのどの検索フレームとも異なるフレームが開きます。テスト反復を実行しているときに，正しいフレームが識別されない場合があります。

回避策：それぞれの反復の最後にブラウザを閉じます。

➤ QuickTest は，SblTable 内のレコード・セットのスクロールを記録しません。

回避策：記録中は，テーブルを 1 行ずつスクロールします。

ヒント：エキスパート・ビューを使用すれば，複数行をスクロールするようにステートメントを手動で編集できます。

➤ 標準設定では，QuickTest は Editor コントロールの操作（主に長い **Description** フィールドで使用されます）を記録しません。

回避策：低レベルの記録を使用し，必要であれば当該コントロールへのスクロールを記録するようにします。

➤ Siebel の各バージョンには，ユーザ・インタフェースへの変更 / 修正が含まれています。したがって，旧バージョンの Siebel で作成したもはやインタフェース内に存在しない要素に対するステップは，おそらく実行が失敗するため，置き換える必要があります。

たとえば，旧バージョンの Siebel で Siebel テーブルの一番上の行に表示されていた次のレコード・セットを表示するためのボタン矢印は，Siebel バージョン 7.5.2 でテーブル横のスクロール・バーと置き換えられました。この場合は，Image("Next Record").Click をスクロール・バーに対する操作と置き換えます。

➤ SblTable オブジェクト内の最初のカラムの名前は取得できません。

回避策：最初のカラムのセルに対する操作は，カラム・インデックスを使って実行します。

Standard-Interactivity（SI）アプリケーション

➤ SI アプリケーションの一部のダイアログ・ボックスでは，チェック・ボックスを選択するとナビゲーションが発生するケースで（たとえば，［**新規**］カラムなどのチェック・ボックス・テーブル・カラム内で），QuickTest がその後のステップを記録しなかったり不正確に記録したりする場合があります。

回避策：記録を正確に続行するには，次の操作の前にページ内の任意の場所をクリックします。

➤ Currency Calculator ポップアップ・コントロールについて記録しているときに，通貨値を入力した直後に［**OK**］をクリックすると，記録エラーが発生することがあります。

回避策：SblAdvancedEdit オブジェクト内の Currency Calculator ポップアップ・コントロールの中で［**OK**］をクリックする前に，ポップアップ内の別のコントロールを選択してから［**OK**］をクリックします。

High-Interactivity（HI）アプリケーション

➤ ブラウザのセキュリティ設定と，インストールされている Siebel パッチによっては，Siebel アプリケーションにログインしたときに複数のダイアログ・ボックスが開くことがあります。必要な Siebel パッチがすべてダウンロードされてインストールされてから，テストまたはコンポーネントを実行することをお勧めします。何かの理由でそれができない場合は，セキュリティ警告について記録されたステップの間に追加された **Sync** ステップを手動で削除してください。

➤ **SblTable.Sort** 操作が MVG（Multi-Value Group）アプレット内で最初の操作である場合，QuickTest はその操作を記録できません。

回避策：MVG アプレット内の任意の場所をクリックしてから並べ替えます。

➤ ポップアップ・オブジェクトを開く **SblAdvancedEdit** オブジェクトを対象とした記録を行う場合，QuickTest が記録するのは **Set** メソッドだけであり，ポップアップ・オブジェクト内での操作は記録されません。ただし，ポップアップ・オブジェクトからテーブルを開いた場合，QuickTest はこの 2 次テーブル内で実行された操作を記録します。これらのステートメントはテストまたはコンポーネント内で必要ではありません。これは，Pickup テーブル選択項目をメイン・テーブルに挿入する操作も記録されるためです。場合によっては，これらの冗長ステートメントが実行セッションに干渉することがります。

回避策：テストまたはコンポーネントが予期したとおりに動作しない場合は，ポップアップ・オブジェクトから開かれた 2 次テーブルについて記録されたステートメントを削除します。

- Siebel テーブルに添付ファイルを追加すると，QuickTest は実行セッションの妨げになる可能性のある追加のステートメントを記録します。

  回避策：記録が終わってから，添付ファイルを追加したときに記録された **OpenCellElement** ステートメントと **Add** ステートメントを削除します。

- Currency Calculator コントロールを使って Siebel テーブルのセルに値を挿入する場合，値を入力したセルをクリックする前に別のセルにカーソルを移動すると，QuickTest は新しい **SelectCell** ステップを **SetCellData** の前に記録することがあります。

  回避策：記録中に，常に ENTER キーを押して Currency Calculator を閉じるようにします。何かの理由で Currency Calculator が ENTER キーを使って閉じられなかった場合は，**SetCellData** ステップと **SelectCell** ステップの順序を手動で変更することができます。

標準 Windows オブジェクト - テストとコンポーネントの作成と実行

- WinMenu オブジェクト上にチェックポイントを挿入することはできません。

  回避策：**CheckProperty** メソッドと **CheckItemProperty** メソッドを使用して，特定のプロパティと項目プロパティの値をチェックします。

- Windows ロゴ・キー・ショートカットを使って記録すると，記録が不正確になることがあります。

  回避策：記録するときには，Windows ロゴ・キーの代わりに［**スタート**］メニューを使用します。

- WinCalendar のスタイルを変更すると（たとえば単一選択から複数選択へ），実行セッションが失敗します。

- オブジェクト・スパイから指差しポインタを使って MFC 静的テキストやタブ・コントロールをポイントした場合，QuickTest が正しいオブジェクトを返すのに失敗することがあります。

回避策：該当のオブジェクトをオブジェクト・リポジトリに追加します。追加するには，対象オブジェクトの親ウィンドウをポイントし，［オブジェクトの選択］ダイアログ・ボックスで親ウィンドウ・オブジェクトを選択，［**OK**］をクリックし，［オブジェクト フィルタの定義］ダイアログ・ボックスの中で次のいずれかを実行します。

➤ 親ウィンドウ内のすべてのオブジェクトをオブジェクト・リポジトリに追加するために，［**すべてのオブジェクト タイプ**］オプションを選択する。

➤ ［**選択したオブジェクト タイプ**］オプションを選択，［**選択**］ボタンをクリックし，オブジェクト・リポジトリに追加する個々のオブジェクトの種類を選択する。

オブジェクト・リポジトリにオブジェクトを追加した後，**GetROProperty** メソッドを使用してオブジェクトの実行時のプロパティ値を取得できます。
例：

```
width = Dialog("Login").Static("Agent Name:").GetROProperty("width")
MsgBox width
```

Stingray アプリケーション - テストとコンポーネントの作成と実行

➤ Stingray Add-in を使用して，Stingray コントロールを対象にテストおよびコンポーネントを作成し実行できます。

Objective Grid：QuickTest は，WinTable メソッドを使ってグリッドに対する操作を記録および実行します。

Objective Toolkit：QuickTest は，ツリー・コントロールに対する操作の記録と実行には WinTreeView メソッドを使用し，タブ・コントロールについては WinTab メソッドを使用し，ツールバーおよびメニュー・バー・コントロールについては WinToolbar メソッドを使用します。

ヒント：グリッド・セルには，未処理のデータが表示されることも書式設定されたデータが表示されることもあります。**GetCellData** メソッドは，セル内の未処理のデータを取得します。表示された（書式化された）データを取得するには，**GetCellDisplayedData** メソッドを使用します。

詳細については，『**HP QuickTest Professional Object Model Reference**』（英語版）（［**ヘルプ**］＞［**QuickTest Professional ヘルプ**］＞［**Object Model Reference**］）の **Stingray** の項を参照してください。

- プリコンパイル・エージェント・モードを使って構築された Stingray アプリケーションの場合，一度でも Stingray サポート設定ウィザードを使って Stingray ランタイム・エージェントを設定していると，そのアプリケーションに対するステップの記録，学習，または実行が失敗することがあります。
- 標準設定では，シングル・スレッドの Stingray アプリケーションだけがサポートされます。

  マルチスレッド・アプリケーションのサポートを提供するには，QuickTest で，［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**Stingray**］ノードを選択します。［**マルチスレッド化されている Stingray アプリケーションをサポートする**］チェック・ボックスを選択し，［**OK**］をクリックします。QuickTest を閉じてから再び開始します。

  詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。
- Stingray Add-in は，Objective Edit コントロールと Objective Chart コントロールはサポートしません。
- **ExpandAll** メソッドは，Stingray ツリー・コントロールについてはサポートされません。
- コントロールのウィンドウ・ハンドルと Visual C ++ オブジェクトを相関させる MFC 内部マップに，Stingray コントロールのエントリがすべては含まれていないことがあります。Stingray Add-in は，アプリケーションから情報を取得するときにこのマップに頼っているので，このような場合に一部の Stingray コントロールを認識できない可能性があります。

  回避策：Stingray Add-in には，前述のような状況で MFC マップ・エントリの欠如に対する備えとして働く補助メカニズムが含まれています。このメカニズムを有効にするには，QuickTest で，［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**Stingray**］ノードを選択します。［**MFC マップをキャッシュする**］チェック・ボックスを選択して［**OK**］をクリックします。QuickTest を閉じてから再び開始します。

注：このメカニズムはパフォーマンス・オーバーヘッドを生じさせるため，標準設定ではアクティブになっていません。

- ネストされたタブ・コントロールが対象の場合，一意の識別を可能にするために，オブジェクト・リポジトリ内の対応するエントリを手動で修正しなければならない場合があります。たとえば，既存の記述に元の識別子を追加しなければならないことがあります。
- 標準設定では，Stingray グリッドについて記録しているときには，エディット・ボックス，チェック・ボックス，およびドロップダウン（コンボ）リストがサポートされます。Stingray グリッドに埋め込まれているこれ以外の種類のコントロールは，部分的にサポートされるか，まったくサポートされません。

注：CGXTabbedComboBox コントロールと CGXCheckBoxEx コントロール・タイプは，記録時にはサポートされません。

回避策：サポートされているもの以外のコントロールを対象にするには，テストまたはコンポーネントに **SetCellData** ステートメントを手動で追加します（セル内でのユーザのアクションを記録する代わりに）。

- **GetCellData** メソッドと **SetCellData** メソッドは，3000 文字までに制限されています。
- 標準設定では，以下のグリッド・クラスだけがサポートされています。
  - CGXBrowserView
  - CGXBrowserWnd
  - CGXGridWnd
  - CGXGridView
  - CGXGridHandleView

  CGXCore から直接派生したほかのグリッド・クラスの使用については，HP ソフトウェア・サポートに問い合わせてください。

- Stingray ツリー・コントロール項目にヒントが備わっている場合，項目のラベルをクリックしてその項目を選択する操作の記録が失敗することがあります。

  回避策：要求された項目を，その項目のアイコンをクリックして選択します。

ターミナル・エミュレータ - テストとコンポーネントの記録と実行

- QuickTest は，記録モードがターミナル・エミュレータの設定調節ダイアログ・ボックスで「**テキスト画面**」モードに設定されている場合，Attachmate Reflection（14）に対する操作を記録することができません。

- IBM PCOM エミュレータが対象の場合，テストまたはコンポーネントの記録または実行中に，QuickTest がヨーロッパ言語の特殊文字を無視することがあります。

  回避策：QuickTest で ［**ツール**］ ＞［**オプション**］ ＞［**ターミナル エミュレータ**］ ＞［**設定を調節**］ ＞［**エミュレータの設定**］ ＞［**コード ページ番号（IBM PCOM のみ)**］オプションを使用して，IBM PCOM エミュレータ用のコード・ページを設定します。

ヒント：［**コード ページ番号（IBM PCOM のみ)**］オプションを 1252 に設定してみてください。

- QuickTest Professional Terminal Emulator Add-in は，エミュレータが接続されているときにのみ，エミュレータ・ウィンドウ・オブジェクトを識別できます。たとえば，次のステートメントを使ってエミュレータ・セッションに接続することはできません。

  ```
  TeWindow("TeWindow").WinMenu("Menu").Select "Communication;Connect"
  ```

  回避策：エミュレータと接続する前に実行する必要のあるステップを記録できます。それらのステップは，Terminal Emulator Add-in がロードされていないかのように記録されます。エミュレータが接続されたら，記録セッションを停止して，ターミナル・エミュレータ・オブジェクトを記録するための新しい記録セッションを開始してください。

- HLLAPI をサポートするエミュレータを使用している場合，記録中にエミュレータ・セッションがホストから切断されると，その後再接続されても，QuickTest がエミュレータを認識しなくなります。

  回避策：記録を停止し，セッションを再接続してから，記録を続行します。

- Hummingbird HostExplorer エミュレータで記録を行っているときには，エミュレータ・ウィンドウ内でのメニュー操作とツールバー操作が無効になります。

  回避策：記録を停止し，必要なメニュー項目を選択するか，必要なツールバー・ボタンをクリックし，記録を続行します。

- HLLAPI をサポートするエミュレータを使用している場合，記録中にエミュレータ・ウィンドウを閉じると，予期しない結果が生じることがあります。

  回避策：エミュレータ・ウィンドウを閉じる前に記録を停止します。

- QuickTest がテストまたはコンポーネントを実行しているときに，ターミナル・エミュレータ・ウィンドウ内でオブジェクトのクリック，入力，または移動を行うと，予期しない結果が生じることがあります。

  回避策：エミュレータを使用する前に，テストまたはコンポーネントの最後まで待つか，テストまたはコンポーネントの実行を一時停止します。

- QuickTest Professional Terminal Emulator Add-in は，ターミナル・エミュレータ・アプリケーション内のツールバー・オブジェクトに対する記録操作はサポートしていません。

  回避策：ツールバー・ボタンに対応するメニュー・コマンドについて記録します。代わりに，低レベル記録を使ってツールバーに対する操作を記録することもできます。低レベルの記録の詳細については，『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

- たとえば TeWindow("TeWindow").TeScreen("screen5296").SendKey TE_RESET のように，ターミナル・エミュレータのロックを解除するために **SendKey** メソッドを使用しても，一部のエミュレータ（Host On-Demand など）はロック解除されない場合があります。

  回避策：［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**ターミナル エミュレータ**］＞［**設定を調節**］＞［**実行の設定**］＞［**キーボード イベントを使って特殊なエミュレータ キーを含むステップを実行する**］＞［**RESET 関数のキー**］オプションを使用して，RESET コマンドについて送信するキーボード・イベントを指定します。

- あるターミナル・エミュレータを使って記録したテストまたはコンポーネントが，別のターミナル・エミュレータでは正しく実行できない場合があります。たとえば，RUMBA で記録したテストは IBM PCOM では実行できません。

ターミナル・エミュレータ - 制限事項

- EXTRA! エミュレータをインストールした後で，予期しない動作が生じることがあります。QuickTest Professional を実行できなかったり，さまざまな機能が動作を停止したりする場合があります。これは，インストールされた EXTRA! が **atl.dll** ファイルの古いバージョンをコンピュータにコピーして登録したために発生している可能性があります。

  回避策：システム・フォルダ（WINNT¥system32）内の **atl.dll** を見つけます。そのバージョンは 3.0 以降でなければなりません。**regsvr32** ユーティリティを使って，適切な atl.dll を登録します。

- HostExplorer の HLLAPI GetKey 関数にはバグがあります。その結果，QuickTest がターミナル・エミュレータのキーボード・イベントをしばらく記録してから記録を停止し，キーボード・イベントに反応してエミュレータも停止する場合があります。

  回避策：Hummingbird のカスタマー・サポートに連絡し，HLLAPI GetKey 関数の問題（数回の呼び出しの後で反応しなくなる）を修正するパッチを入手してください。

- Hummingbird 9.0 5250 セッションについてテストまたはコンポーネントを記録および実行するためには，Hummingbird のパッチをインストールする必要があります。

  回避策：Hummingbird のカスタマー・サポートに連絡し，すべての 5250 フィールドが保護されているように見える HLLAPI の問題を修正するパッチを入手してください。

- Attachmate Terminal Viewer 3.1 5250 セッションが対象の場合，画面で最初の保護されていないフィールドの前に表示されているすべてのフィールドが，単一のフィールドとして認識されます。

- エミュレータのインストール直後には，NetManage RUMBA セッション内の TeField オブジェクトを QuickTest が認識しない場合があります。

  回避策：RUMBA をインストールした後で，たとえインストール後の再起動が必須ではなくても，コンピュータを再起動します。

接続と切断

➤ 複数のターミナル・エミュレータ・セッションが開いている場合，QuickTest はどのセッションも認識しません。

回避策：テストまたはコンポーネントを記録または実行しているときには，接続するターミナル・エミュレータ・セッションは一度に 1 つだけにします。

➤ 実行セッション中に現在のエミュレータ・セッションを切断するステップがテストまたはコンポーネントに含まれていて，そのステートメントの直後に **TeScreen.Sync** コマンドがある場合，そのテストまたはコンポーネントの実行が応答しなくなったり，応答に長い時間を要したりすることがあります。

回避策：テストまたはコンポーネントから **Sync** コマンドを削除するか，**Wait** ステートメントで置き換えます。詳細については，『**HP QuickTest Professional Object Model Reference**』（英語版）の「**Utility**」の項を参照してください。

➤ エミュレータ・セッションがビジー状態のときに，チェックポイントの挿入，新しいテストまたはコンポーネントの作成，または既存のテストまたはコンポーネントを開く操作を行うと，予期しない問題が発生することがあります。

回避策：これらの操作をどれか実行する前に，エミュレータ画面のステータス行でエミュレータの接続ステータスをチェックします。

➤ 記録中に Host On-Demand セッションとの接続を切った後，予期しない動作をすることがあります。

回避策：セッションとの接続を切る前に記録を停止します。その後，セッションとの接続を切るステップを手動で追加します。

➤ QuickTest が記録しているときにターミナル・エミュレータが閉じられると，予期しない動作が見られることがあります。

オブジェクトの識別

➤ 標準設定では，QuickTest は TeField テスト・オブジェクト記述の中で **attached text** および **protected** プロパティを使用します。フィールドの付属テキストがセッションごとに異なる場合，QuickTest はセッション実行時にそのフィールドを見つけられません。

回避策：［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックスか，そのオブジェクトの［オブジェクトのプロパティ］ダイアログ・ボックスを開きます。フィールドの記述から **attached text** プロパティを削除し，そのオブジェクトを一意に識別するために，**start row**，**start column**，**index** などの別のプロパティを追加します。

ヒント：TeField オブジェクトについてスマート認識定義を作成して，たとえ特定の TeField オブジェクトの **attached text** プロパティ値が変化しても，記録されたテストまたはコンポーネントが正常に実行されるようにすることもできます（［**ツール**］＞［**オブジェクトの認識**］＞［**スマート認識を有効にする**］を選択し，［**設定**］をクリックします）。スマート認識の詳細については，『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

➤ TeScreen オブジェクトのプログラム的記述の中で **label** プロパティを使用することはできません。ただし，所定の TeWindow の中に存在できる画面は一度に 1 つだけなので，TeScreen("MicClass:=TeScreen") を使用することができます。

次に例を示します。

```
TeWindow("short
name:=A").TeScreen("MicClass:=TeScreen").TeField("attached text:=User",
"Protected:=False").Set "33333"
```

➤ TextScreen プロパティの **current column** と **current row** は，HLLAPI をサポートするエミュレータに対してしか使用できません。

➤ TeField オブジェクトについては，**location** プロパティは記録されません。

回避策：代わりに **index** プロパティを使用します。

Visual Basic アプリケーション - テストとコンポーネントの作成と実行

➤ Visual Basic アドインを使用する場合は，［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスの［Windows アプリケーション］タブで，［**次のみを対象として記録して実行する**］オプションを選択してアプリケーション名を指定することをお勧めします。

［**開かれている Windows ベースのアプリケーションすべてでテストを記録して実行する**］オプションを選択する場合は，初めての記録を開始してから Visual Basic アプリケーションを起動します。

➤ Simple Combobox スタイルのコンボ・ボックス・オブジェクトはサポートされません。

Web オブジェクト - テストとコンポーネントの作成と実行

➤ UAC（User Account Control：ユーザ・アカウント制御）がオンになっているコンピュータで作業を行う場合，QuickTest は，QuickTest Professional のインストール後にインストール（または新しいバージョンにアップグレード）された Mozilla Firefox ブラウザを対象とするテストをサポートしません。

回避策：上記の環境に Mozilla Firefox をインストールした後，管理者としてログインし，QuickTest を開きます。これによって，QuickTest が Mozilla Firefox をサポートするために必要なファイルがインストールされます。

➤ UAC（User Account Control：ユーザ・アカウント制御）がオンになっていて，Internet Explorer の［**保護モードを有効にする**］オプションが選択されているコンピュータで作業を行う場合，QuickTest は，記録または実行セッションの開始時に［記録と実行環境設定］ダイアログ・ボックスの［**記録または実行セッションが始まったら次のブラウザを開く**］オプションの指示に従って Internet Explorer ブラウザを開くことができません。

回避策：Internet Explorer の［**保護モードを有効にする**］オプション（［**ツール**］＞［**インターネット オプション**］＞［**セキュリティ**］）をクリアし，変更を適用して，ブラウザを閉じます。

➤ Web テスト・オブジェクトは，**Class Name** 識別プロパティをサポートしません。Web オブジェクトを対象に **ChildObjects(Descr)** ステップを実行しようとしたとき，**Descr** 引数に **Class Name** プロパティが含まれている場合，General Run Error メッセージが表示されます。

回避策：**Descr** 引数の中で **micclass** プロパティを使用します。

- QuickTest は，ASP .NET Ajax ドラッグ・パネル・コントロールを対象とした **Drag** および **Drop** 操作を記録しません。

  回避策：該当するオブジェクトがオブジェクト・リポジトリに存在することを確認し（またはそのオブジェクトを学習し），必要な **Drag** および **Drop** 操作を手動で挿入します。

- Internet Explorer 8.0 Beta 2 または Mozilla Firefox 3 で **WebFile.Set** ステップを実行するとき，ファイル選択ダイアログ・ボックスが開いたままになります。その結果，Web アプリケーションを対象とする以降のステップが失敗します。

  回避策：次のいずれかを行います。

  - 開いているダイアログ・ボックスを処理する回復シナリオを作成します。
  - **Set** メソッドをオーバーライドして次のことを行う関数を登録（**RegisterUserFunc**）します。
    - WebFile ダイアログ・ボックスの標準の **Set** メソッドを呼び出す。
    - WebFile オブジェクトが存在するかどうかをチェックし，存在する場合は［**開く**］ボタンをクリックする。

- Internet Explorer 8.0 Beta 2 で記録しているときに WebFile のエディット・ボックスに値を入力すると，期待していた **WebFile.Set** ステップが記録されません。代わりに，いくつかの WinObject ステップが記録されます。

- **回避策**：

  a **＜ QuickTest インストール・フォルダ＞ ¥dat¥FileDlgTitles.xml** のバックアップを作成します。

  b 元の **FileDlgTitles.xml** ファイルを開き，**<Language Name="en">** セクションの下に次の行を追加します。
  <IDS Name="IE_ChooseFile" Value="Choose File to Upload"/>
  （または，適切な言語のセクションの下に同様の行を追加します。ただし，そのとき Value に対して，使用している Internet Explorer の WebFile ダイアログ・ボックスのタイトル・バーの文字列を指定します）。

- 同じフレーム内の Web 要素へのドラッグ・アンド・ドロップ・ステップを記録した場合，実行セッションのときの画面の解像度が記録セッションのときの解像度と同じではないと，テスト・ステップが失敗することがあります。これは，画面解像度が異なると，ターゲット位置の座標が異なる場合があるからです。

  回避策：この問題が生じた場合は，新しい位置に合わせて **Drop** の座標を調整します。

- QuickTest Professional は，**<input type="file">** タグによって表示されるエディット・フィールドの変更だけを記録します。ブラウズ操作は記録されません。

- POST メソッドを使う FORM タグでのクリック操作は正しく実行されないことがあります。

  回避策：この問題が発生した場合は，クリックの前に，Setting.WebPackage("ReplayType") = 2 を使って再生のタイプを［**マウス操作による実行**］に変更します。クリック・ステップの後で，Setting.WebPackage("ReplayType") = 1 を使って再生の種類を標準設定（［**イベントに基づく実行**］）に戻すことをお勧めします。

- AutoComplete ダイアログ・ボックス内のパスワード・フィールドを記録するときに Tab キーを使用すると，QuickTest は間違った記録を行うことがあります。

  回避策：ユーザ名を入力した後 ENTER キーを押すか，［ログイン］ボタンをクリックします。

- Web オブジェクトを対象とした作業において，Description オブジェクトに対して定義されているプロパティがサポートされていない場合でも（たとえば，プロパティ名の綴りに誤りがあるなど），プロパティ名は無視されません。したがって，その Description オブジェクトを使用する **<WebObject>.ChildObjects** ステートメントは失敗します。

- QuickTest バージョン 9.2 およびそれ以前では，Web ページ上のオブジェクトを学習したときや，埋め込み階層を持つページ（Java アプレット，ActiveX コントロール，.NET Windows Forms コントロールなどのオブジェクトを含む）に対して **Page.ChildObjects** ステップを実行したときに，ページ上の Web 要素だけが返されていました。

  QuickTest 9.5 およびそれ以降の学習の動作が変更され，ページ上のすべてのオブジェクトを学習すると，埋め込まれた階層からのオブジェクトも学習されるようになりました。しかし，**ChildObjects** メソッドの動作は後方互換性を保つために変更されず，今も Web オブジェクトだけを取得します。

- タブ・ブラウジングは，Microsoft Internet Explorer，Netscape Browser，および Mozilla Firefox の英語版でのみサポートされます。さらに，タブ・ブラウジングは Netscape 8.1.3 ではサポートされません。

- QuickTest は，ブラウザを開いたときに，前のブラウザ・セッションで開かれて保存された複数のタブを正しく認識できない場合があります。

  回避策：複数のタブが必要な場合は，テストまたはコンポーネントに適切なステップを付け加えて，実行セッション中にそれらを開くようにします。

Internet Explorer でのテストまたはコンポーネントの実行

➤ Microsoft Internet Explorer 6.0 に Windows Live Toolbar がインストールされていて，タブ・ブラウズが有効になっている場合，Internet Explorer 6.0 を開くたびにエラー・メッセージが QuickTest によって表示されることがあります。

回避策：Microsoft Internet Explorer 6.0 のタブ・ブラウズを無効にするには，まず Windows Live Toolbar の［**Windows Live Toolbar オプションの変更**］をクリックします。次に，表示されたダイアログ・ボックスの左の表示枠で［**タブ ブラウズ**］リンクをクリックし，［**タブ ブラウズを有効にする**］チェック・ボックスをクリアします。

➤ Microsoft Internet Explorer 7.0 で作業をしているとき，［Web **デバイス レベル再生**］または［**再生の種類**］オプションがマウス操作を使用するように設定されている場合でも，QuickTest は必ず（マウスではなく）ブラウザ・イベントを使用してリスト・オブジェクトに対するマウス操作を実行します。

➤ Microsoft Internet Explorer 7.0 を使用している場合，QuickTest はスクロールせずにタブ・バンド上に表示されていないタブに切り替えることはできません。

回避策：次のいずれかを実行します。

➤ ブラウザを最大化して，スクロールなしでタブ・バンド上に表示されるタブの数を増やします。

➤ 画面の解像度を上げて，タブ・バンド上に表示されるタブの数を増やします。

➤ Microsoft Internet Explorer で URL に割り当てられていない画像マップの領域に対するクリック操作を記録すると，実行セッション中，QuickTest Professional はマップで最初に検出する URL 割り当て領域をクリックします。

➤ QuickTest Professional は，Microsoft Internet Explorer でのカスタマイズされたツールバー・ボタンを使用した作業をサポートしません（ブラウザに標準で表示されるツールバー・ボタンについてのみ記録します）。

➤ Internet Explorer 7.0 で作業をするとき，Web アドインがインストールされ，ロードされていても，QuickTest Professional が Web オブジェクトを認識しないことがあります。

回避策：Internet Explorer 7.0 の設定をチェックして変更します。

➤ 必要に応じて，Internet Explorer 7.0 のセキュリティ設定を変更します。

Internet Explorer で，［**ツール**］＞［**インターネット オプション**］を選択します。［セキュリティ］タブで、［**保護モードを有効にする**］チェック・ボックスの選択を解除して［**OK**］をクリックします。

- BHOManager Class アドオンが無効になっている場合は，有効にします (（QuickTest はこのアドオンを Internet Explorer 7.0 にインストールします。QuickTest がブラウザおよびそのオブジェクトと対話するためには，BHOManager Class Add-on が［**有効**］に設定されている必要があります)。

  Internet Explorer 7.0 で，［**ツール**］＞［**アドオンの管理**］＞［**アドオンの有効化または無効化**］（［**アドオンの管理**］メニュー項目が表示されていない場合は［**ツール**］＞［**インターネット オプション**］＞［**プログラム**］タブ＞［**アドオンの管理**］ボタン）を選択します。［アドオンの管理］ダイアログ・ボックスで，**BHOManager Class** をクリックして強調表示します。次に，［**設定**］領域で［**有効**］ラジオ・ボタンをクリックして［**OK**］をクリックします。

- QuickTest Professional は，Microsoft Internet Explorer の［検索］フレームは記録しません。
- QuickTest Professional は，Microsoft Internet Explorer の［検索］ウィンドウは記録しません。
- Web ページ内のドロップダウン・ボックスに大量のデータが含まれている場合，記録セッション中に QuickTest Professional の応答が遅くなることがあります。

  回避策：Web ページ上の大量のデータを含んだオブジェクトを学習します（記録する代わりに)。

- 実行セッション中に，タイトルが同じでページ内容が異なる 2 つのタブがブラウザ内で同時に開いていると，QuickTest が正しいタブに対して操作を正しく実行しているのに，もう一方のタブが誤ってアクティブになってしまうことがあります。

  回避策：この問題を修正するには，次のいずれかを実行します。

  - タブ・ブラウジングを無効にします。
  - 同じタイトルで内容が異なる 2 つのタブを同時に開かないようにします。
  - 開いているブラウザ内のタブがすべて異なるタイトルを持っていることを確認します。

Netscape Browser または Mozilla Firefox でのテストまたはコンポーネントの実行

- QuickTest Professional は，Netscape Browser のメニューをサポートしません。
- Netscape ブラウザまたは Mozilla Firefox における Web オブジェクトの **.Object** プロパティはサポートされていません。

- Netscape ブラウザが最小化されている状態では，QuickTest Professional は Netscape ブラウザでテストまたはコンポーネントを実行できません。
- ［オブジェクト スパイ］および［チェックポイントのプロパティ］ダイアログ・ボックスは，Netscape ブラウザおよび Mozilla Firefox のダイアログ・ボックス内のエディット・ボックスに表示される現在の値を取得しません。
- **WebButton** テスト・オブジェクトの **Type** プロパティは，Microsoft Internet Explorer と Netscape ブラウザまたは Mozilla Firefox とで，標準設定値が異なります。Microsoft Internet Explorer では，標準設定値は「**Button**」であり，Netscape ブラウザまたは Mozilla Firefox では，標準設定値は「**Submit**」です。

  回避策：**WebButton** テスト・オブジェクトでは，**Type** プロパティを使用しないでください。
- 同一のコンピュータに Mozilla Firefox の 2 つのマイナー・バージョンがインストールされているとき，旧バージョン（たとえば，Firefox 1.5.0.3）が新バージョン（たとえば，1.5.0.8）よりも後にインストールされた場合，QuickTest はどちらが最新のバージョンかを認識できないことがあります。

Web サービス - テストとコンポーネントの作成と実行

Microsoft .NET Framework 1.1 WSE 2.0 を使って作業をしているときに RPC/literal サービスを定義する WSDL を学習しようとすると，NET Framework 1.1 WSE 2.0 が RPC/literal メッセージをサポートしていないため，QuickTest がエラー・メッセージを表示します。

回避策：.NET Framework 2.0 WSE 3.0 または Apache Axis 1.x を使用します。

Quality Center 統合と Business Process Testing

注：次に説明する Quality Center の問題は，QuickTest から Quality Center に格納されている QuickTest テストおよびビジネス・コンポーネント・アセットの使用に関係します。Quality Center 内の QuickTest アセットおよびビジネス・コンポーネント・アセットの使用に関係する問題の詳細については，**Quality Center** を参照してください。

- 一般に，Business Process Testing アセット（コンポーネントまたはアプリケーション領域）を使用する場合，QuickTest 10.00 は，Quality Center 10.00 のみをサポートします。

  QuickTest 10.00 から Quality Center 9.x サーバに接続した場合，Business Process Testing アセットは読み取り専用形式でのみ開けます。新規の Business Process Testing アセットを作成したり，既存のものを変更したりできません。
  Quality Center 9.x に接続しているときにコンポーネントを実行すると，失敗したり，予期しない動作を招いたりすることがあり，サポートされていません。

- Quality Center 10.00 に格納されているテストが相対パスに基づいた外部アクションを呼び出す場合，外部アクションの［アクションのプロパティ］＞［使用者］タブには呼び出し元のテストが表示されません。

- リソースを Quality Center に保存したとき（QuickTest から，または Quality Center テスト・リソース・モジュールで［**アップロード**］オプションを使用して），リソース・ファイルのファイル名にカンマが含まれている場合，リソースは正常に保存されたように見えますが，ファイルは実際には Quality Center サーバにはアップロードされません。

- バージョン管理を有効にしている Quality Center プロジェクトで作業をしている場合，初めてテストを保存するときに長い時間を要します（最大で，バージョン管理のサポートを有効にしていないプロジェクトに同じテストを保存する時間の 2 倍の時間）。この遅れは，テストの以降の保存時には起こりません。

- バージョン管理を有効にしている Quality Center 10.00 プロジェクトにテストまたはリソースを初めて保存するとき，QuickTest はアセットを Quality Center のバージョン管理データベースに自動的にチェック・インし，バージョン番号 1 を割り当てた後，作業を続けられるようにアセットを自動的にチェック・アウトします。このとき，テストは編集のためにロックされることがないため，

QuickTest または Quality Center のほかのユーザが開いたり，変更を加えたりできます。

➤ QuickTest は，［オプション］ダイアログ・ボックスの［フォルダ］表示枠に指定されている Quality Center フォルダ・パスのフォルダ名にスラッシュ（/）が含まれていると，そのパスを解決できません。

回避策：Quality Center フォルダ名内のスラッシュを取り除くか，このフォルダを使用するパスを，絶対パスを使って指定します（［オプション］ダイアログ・ボックスの［フォルダ］表示枠を参照する相対パスの代わりに）。

➤ アセット比較ツールまたはアセット・ビューアの中で規模の大きなデータ・テーブル（1000 行以上）を表示すると，データ・テーブルの最後までスクロールできないことがあります。

回避策：データ・テーブルの中をクリックして，**Up** キーおよび **Down** キーを使用します。

➤ アセット比較ツールまたはアセット・ビューアを使用して，Quality Center に添付ファイルとして保存されているリソースを比較または表示することはできません。しかし，これらのツールを使用してテストを比較または表示すると，添付ファイルとして保存されているリソースの横に依然として青いドリルダウン矢印が表示されます。ドリルダウン・ボタンをクリックしても何も起こりません。

また，アセット比較ツールまたはアセット・ビューアで開いているテストに関連付けられているリソースがファイル・システムに格納されていて，そのファイルが想定していたパスの中に見つからなかった場合，リソースの横に依然として青いドリルダウン矢印が表示されますが，ドリルダウン・ボタンをクリックしても何も起こりません。

➤ QuickTest から手動コンポーネントを（自動コンポーネントに変換するために）開こうとしたとき，その手動コンポーネントがバージョン管理されている Quality Center プロジェクトにチェック・インされていた場合，QuickTest はそのコンポーネントが存在しないというエラー・メッセージを表示し，コンポーネントを開きません。

回避策：Quality Center を開き，手動コンポーネントをチェック・アウトします。その後，QuickTest でコンポーネントを開けます。

➤ 無効な URL を使用して QuickTest から Quality Center に接続しようとすると，サーバが存在しないという通知を受け取るまで非常に長い時間を要します。

回避策：接続要求を取り消すには，ESCAPE キーを押します。

- Quality Center に格納されている回復シナリオが関数ライブラリの関数を使用する場合，Quality Center はそれら 2 つのアセット間の依存関係を認識せず，Quality Center の［依存関係］タブにその関係を表示しません。
- Quality Center に格納されている回復シナリオ・ファイルをある 1 台の QuickTest コンピュータで開いているときに，同じシナリオ・ファイルを別の QuickTest コンピュータで開くと，QuickTest はファイルがロックされていることを通知しません。
- テストを QuickTest で開いているときに，そのテストに関連付けられているリソース，またはテストが呼び出す外部アクションの名前または場所を変更した場合，名前またはパスの変更がテストと共には保存されず，次回テストを開いたときに，変更のあったリソースまたはアクションが，欠落しているものとして印が付きます。

  同様に，上記の状況でテストに対して［**テストをリソースと保存**］オプションを使用すると，これらのリソースまたはアクションが欠落していると通知されます。

  回避策：QuickTest の［欠落リソース］表示枠を使用してリソースの関連付けまたはアクション呼び出しを更新してから，テストを保存しなおします。
- Quality Center は Unicode に対応していません。そのため，次の点に注意してください。
  - Quality Center に保存されているテストまたはコンポーネントを扱うときには，Unicode は使用しないでください（たとえば，テストまたはコンポーネントの名前，アプリケーション領域の名前，テスト，アクション，コンポーネントのパラメータの標準設定値，メソッド引数の値など）。
  - QuickTest から Quality Center に渡されたデータ（テスト，アクション，コンポーネントのパラメータの値など）は Unicode に対応していません。
  - Unicode の文字を含む QuickTest の結果は，Quality Center の結果グリッドで破損しているように見えることがあります。ただし，QuickTest の［テスト結果］ウィンドウで Unicode の文字を含む結果を開いて表示することができます。
- Quality Center からテストまたはコンポーネントを開いたり実行したりする前に，現在インストールされている QuickTest を少なくとも 1 回は開く必要があります。そうでない場合，Quality Center が QuickTest を開けないことがあります。

- ［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックスまたはオブジェクト・リポジトリ・マネージャから，コンポーネントのチェックポイントまたは出力値の設定を変更すると，チェックポイントまたは出力値の詳細を Quality Center から表示できなくなります。

  回避策：キーワード・ビューで，［チェックポイントのプロパティ］または［出力値のプロパティ］ダイアログ・ボックスを開き，コンポーネントのチェックポイントと出力値の設定を変更します。

  すでに［オブジェクト リポジトリ］ダイアログ・ボックスまたはオブジェクト・リポジトリ・マネージャで編集されたチェックポイントまたは出力値の問題を解決するには，そのチェックポイントまたは出力オブジェクトをローカル・オブジェクト・リポジトリに保存します（そうすれば編集可能です）。その後キーワード・ビューで，［チェックポイントのプロパティ］または［出力値のプロパティ］ダイアログ・ボックスを使ってチェックポイントまたは出力値を変更し，その変更を保存します。

- Quality Center から QuickTest テストまたはコンポーネントの名前を変更すると，テストまたはコンポーネントが正しく動作しないことがあります。

  回避策：テストまたはコンポーネントの名前を変更するには，QuickTest でテストまたはコンポーネントを開き，［**名前を付けて保存**］オプションを使用します。すでに Quality Center でテストまたはコンポーネントの名前を変更した場合は，再度［名前の変更］オプションを使用して古い名前に戻し，その後 QuickTest で［**名前を付けて保存**］オプションを使用します。QuickTest から QuickTest テスト・パラメータの名前を変更すると，すでに Quality Center で設定された実行時パラメータの値はすべて失われます。

- ローカル・システムの監視はビジネス・コンポーネントではサポートされません。

- 新規のアプリケーション領域に関連付けられる標準設定の関数ライブラリ・リソースを移動したり名前を変更したりしたとき，パスが更新されません。新規のアプリケーション領域を作成するとき，それらは欠落リソースとみなされます。

  回避策：［欠落リソース］表示枠を使用して欠落リソースの関連付けをしなおします。

➤ QuickTest 8.2.x で，関連付けられたアプリケーション領域を使用せずにビジネス・コンポーネントを作成し，これを QuickTest 9.x で開いて現在の形式に変換する場合，カスタマイズされたビジネス・コンポーネント設定はクリアされるため，ビジネス・コンポーネント実行は失敗します。

回避策：ビジネス・コンポーネントを現行のバージョンに変換した後，必要なリソースおよび設定が含まれているアプリケーション領域にそのビジネス・コンポーネントを関連付ける必要があります。

➤ Business Process Testing を使用する際は，同じコンピュータ上の Quality Center と QuickTest の同じビジネス・コンポーネントで作業することはできません。これを行うとビジネス・コンポーネントが壊れる可能性があります。

➤ 反復回数とビジネス・コンポーネントが多数あるビジネス・プロセス・テストを実行していると，少し時間が経過するとメモリ容量の問題が生じることがあります。

回避策：［リモート エージェントの設定］ダイアログ・ボックスの［**テストツールの再起動 X 回実行後**］オプション（［**スタート**］＞［**プログラム**］＞［**QuickTest Professional**］＞［**Tools**］＞［**Remote Agent**］）を使用して，実行中のビジネス・コンポーネントの数をカウントし，定義したしきい値を超えてから最初の 1 回目のビジネス・プロセス・テストの反復が実行した後で QuickTest を自動的に再起動します。

Microsoft Windows Vista および Windows Server 2008 の使用

➤ QuickTest のインストール後（または以前のバージョンからのアップグレード後），コンピュータを再起動せずに Windows Vista または Windows Server 2008 で記録セッションを開始すると，QuickTest は Windows の［**スタート**］メニューまたは Microsoft Windows Vista の［**クィック起動バー**］に対する操作を記録できません。

回避策：コンピュータを再起動してから新しい記録セッションを開始します。

➤ QuickTest は，［マイ コンピュータ］，［コントロール パネル］，［最近使ったファイル］のように，メニューと開くようにカスタマイズされた［**スタート**］メニュー項目の選択を記録しません。

回避策：［**スタート**］メニュー項目をリンクとしてカスタマイズし，QuickTest がそれらの項目に対する操作を記録したり，それらの項目のアクティブ化を（［**スタート**］メニューによる方法ではなく）別の方法で記録したりできるようにします。

➤ Windows Vista のセキュリティ設定によって，QuickTest Professional 関連のインストール（パッチのインストールなど）や Quality Center プロジェクトへの接続（直接でも QuickTest Professional からでも）が妨げられることがあります。これは，UAC（User Account Control：ユーザ・アカウント制御）オプションがオンになっており，まだ Quality Center プロジェクトに接続したことがないと起きます（該当する場合）。

回避策：次の手順で UAC オプションを一時的にオフにします。

a 管理者としてログインします。

b［**コントロール パネル**］で［**ユーザー アカウント**］＞［**ユーザーアカウント制御の有効化または無効化**］を選択します。

c［**ユーザー アカウント制御（UAC）を使ってコンピュータの保護に役立たせる**］チェック・ボックスをクリアして，［**OK**］をクリックします。

前述の手順で UAC オプションを無効にした後，必要なインストールや Quality Center への接続を通常どおりに実行します。作業が完了したら，ユーザ・アカウント制御（UAC）オプションを再びオンにしても構いません。その後は，必要に応じて Quality Center に接続できるようになるはずです。

➤ UAC（ユーザ・アカウント制御）オプションがオンに設定されているとき，QuickTest の外部ツール（Test Batch Runner，Test Results Deletion Tool，Save and Restore Settings ツールなど，［**QuickTest Professional**］＞［**Tools**］プログラム・グループのツール）は使用できません。

回避策：これらのツールを使用している間，UAC オプションを一時的にオフにします。

➤ UAC がオフに設定されているときにファイル・システムのシステム・フォルダ（%Windir% や Program Files など）に保存されたアセットは，UAC がオンに設定されているときは読み取り専用モードでのみ開けます。

回避策：アセットを別の場所にコピーし，その新しい場所からファイルを開きます。

➤ UAC がオンに設定されているときに，QuickTest データ・テーブルを Excel ファイルにエクスポートすることを選択した場合（データ・テーブルのショートカット・メニューから，あるいは，**DataTable.Export** または **ExportSheet** メソッドを使用して），エラー・メッセージは表示されませんが，Excel ファイルは作成されません。

- UAC がオンに設定されているときに，テスト結果をシステム・フォルダにエクスポートすることを選択した場合，エクスポートしたファイルは，指定されたフォルダではなく仮想ストレージの下に格納されます。
- Windows Vista における DCOM 許可の付与の問題が原因で，Quality Center からリモートの Windows Vista ホスト上で QuickTest を正常に実行させることができません。

  回避策：**＜ QuickTest のインストール先＞ ¥bin** フォルダ内の **RmtAgentFix.exe** を実行するか，［**スタート**］＞［**プログラム**］＞［**QuickTest Professional**］＞［**Tools**］＞［**Additional Installation Requirements**］で開く Additional Installation Requirements ユーティリティを使用します。

注：Windows Vista に関するその他の問題については，以下を参照してください。

- 86 ページ「Windows ベース環境に対するテキスト認識のサポート」
- 97 ページ「HP 画面レコーダ」
- 101 ページ「多言語環境でのテキスト認識」

Windows ベース環境に対するテキスト認識のサポート

- 標準の OCR 設定では，キャプチャされたテキストの中に予期しない文字が追加される場合があります。

  回避策：次の内から 1 つまたは複数の値を設定します。

  - 画面のプロパティの［**テーマ**］を［**Windows XP**］に設定します。
  - 画面のプロパティの［**デザイン**］を［**Windows XP スタイル**］のウィンドウとボタンを使用するように設定します。
  - アプリケーション内の文字サイズを大きくします。
  - ［オプション］ダイアログ・ボックスの［**一般**］＞［**テキスト認識**］表示枠の中で，［**単一テキスト ブロック モード**］を選択します。

➤ Windows Vista の 32 ビット対応または 64 ビット対応のオペレーティング・システムでは，QuickTest のテキスト認識機能（テキスト・チェックポイント，出力値，**GetVisibleText** および **GetTextLocation** の各テスト・オブジェクト・メソッド，ならびに **TextUtil.GetText** および **TextUtil.GetTextLocation** の各予約済みオブジェクト・メソッド）は限定的であり，正しく動作しないことがあります。

回避策：Windows Vista では，Windows クラシック・テーマを適用し，QuickTest でテキスト認識モードを［**OCR のみ使用する**］に設定することにより，テキスト認識を向上させることができます（それには，［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**一般**］ノード＞［**テキスト認識**］ノードを選択し，［**この順番でテキスト認識メカニズムを使用する**］ボックスから［**OCR のみ使用する**］を選択します）。

➤ ウィンドウレスの ActiveX ラジオ・ボタン・オブジェクトをクリック（**AcxRadioButton.Click**）するか **Set** メソッドを使用してアクティブにしないと，**AcxRadioButton.GetVisibleText** メソッドを含んだステップは，オブジェクトが可視でないことを示すエラーを返します。

回避策：ウィンドウレスの ActiveX ラジオ・ボタン・オブジェクトを対象に **GetVisibleText** メソッドを使用するすべてのステップの前に，**Click** または **Set** を使用するメソッドを挿入します。

ActiveScreen

➤ WinMenu オブジェクトの記録をするときには，ActiveScreen はキャプチャされません。

➤ ActiveScreen の Web ページ内に表示される Java アプレットまたは ActiveX コントロールは表示専用であり，そのオブジェクトを対象とした操作（たとえば，チェックポイントの作成，メソッドの追加など）はできません。

回避策：Java アプレット /ActiveX コントロールを対象とする操作を記録して，ActiveX Add-in または Java Add-in，あるいはその両方がロードされているオブジェクトを対象とするステップを作成します。この後，ActiveScreen で，チェックポイントの作成，ステップのパラメータ化，あるいは Java アプレット /ActiveX コントロールのメソッドの追加が行えます。

Windows ベースの SAP アプリケーション - Active Screen の使用

- ActiveScreen の画像は，キャプチャされた画面ビットマップに基づいています。したがって，SAP GUI for Windows ビューに表示されていないオブジェクトは，ActiveScreen 画像の一部にはなりません。キャプチャされたビューの中にないオブジェクトを ActiveScreen からスクリプトに追加することはできません。
- ドロップダウン・メニューは ActiveScreen 内にキャプチャされません。ActiveScreen テクノロジは，メニューが閉じてメニュー項目が選択されてからデータをキャプチャします。
- QuickTest Professional は記録時に，1 つの ActiveScreen 画像を複数のステップにキャプチャします。QuickTest Professional は，SAP GUI for Windows クライアントが SAP バックエンド・サーバに情報を送信したときにだけステップを記録します。これが発生したとき，前の通信と現在の通信との間に実行されたすべてのステップがスクリプトに追加されます。その通信中に記録されるすべてのステップについて，サーバに送られた最後の画面が ActiveScreen によってキャプチャされます。
- SAP GUI for Windows アプリケーション内の Web 要素について記録している場合，HTML 画像はキャプチャされません。
- SAP GUI for Windows アプリケーション内の Web 要素について記録されたステップから作成された ActiveScreen からオブジェクト・リポジトリにオブジェクトを追加すると（［**オブジェクトの表示 / 追加**］オプションを使って，あるいはチェックポイントまたは出力値ステップを作成して），オブジェクト・リポジトリ内に不正確なオブジェクト階層が生成されます。

Web ベースの SAP アプリケーション - Active Screen の使用

- テストの記録中にキャプチャされた HTML ページの全体を ActiveScreen が表示しないことがあります。

  回避策：その HTML ページのサイズにぴったり合うように，ActiveScreen のサイズを変更します。

- SAP Enterprise Portal アプリケーションをテストする場合は，ActiveScreen アクセスに関する詳細認証を設定することをお勧めします（［**テスト**］＞［**設定**］＞［**Web**］）。詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

➤ ポップアップ・ダイアログが開いているときにキャプチャされた ActiveScreen を，メイン・ウィンドウからオブジェクト・リポジトリにオブジェクトを追加するために使用するのは避けてください。そうすると，オブジェクト・リポジトリ内に不正確なオブジェクト階層が生成されます。

オートメーション

➤ オブジェクト・リポジトリ・オートメーション・スクリプトを実行しているときに，**RepositoryUtil.GetChildren** ステートメントへの呼び出しの後で返されたオブジェクトがヌルにならなかった場合，QuickTest はそのスクリプトの最後でクラッシュします。

回避策：スクリプトの最後に次の行を追加します。

TestObject = NULL

TestObject 変数は，**GetChildren** メソッドから返されるテスト・オブジェクトです。

➤ QuickTest 8.2 またはそれ以前で作成したテストを，自動化スクリプトを使用して開くと，そのテストは現在の QuickTest の形式に自動的に変換されるため，時間がかかることがあります。この方法でテストを開くときには，変換を行うかどうかを選ぶことはできません。テストは自動的に新しい形式に変換され，変換・保存が行われた後は，以前のバージョンの QuickTest で開くことはできません。

➤ **SetObjectRepositoryAsDefault** メソッドおよび **ObjectRepositoryPath** プロパティ・パスはサポートされなくなりました

回避策：自動化スクリプトを更新して，代わりに **ObjectRepositories** コレクションのメソッドおよびプロパティを使用します。詳細については，［**ヘルプ**］＞［**QuickTest Professional ヘルプ**］＞［**QuickTest Advanced References**］＞［**QuickTest Automation**］を参照してください。

データ・テーブル

➤ コンボ・ボックスやリスト・セル，条件付き書式などの特別なセル書式が含まれる Microsoft Excel テーブルをインポートする場合，書式はインポートされず，セルは固定値とともにデータ・テーブルに表示されます。

➤ データ・テーブルに非常に大きな数を入力すると，予想外の振る舞いが生じることがあります。

チェックポイントと出力値

一般 - チェックポイントと出力値

- 64 KB 以上あるチェックポイントの実行は遅くなることがあります。
- 記録中に挿入されたチェックポイントの **Focused** プロパティの値は，必ず **FALSE** になります。

  回避策：プロパティの値を手動で変更するか，テストまたはコンポーネントで実行の更新を実行します（［**オートメーション**］＞［**更新モード**］）。
- ページのソース・コードまたは HTML タグを対象とするチェックポイントは ActiveScreen からは挿入できません。記録中に挿入する必要があります。これらのチェックポイントは，最初の実行セッション中に失敗することがあります。

  回避策：ページのソース・コードまたは HTML タグを対象とするチェックポイントを含むテストまたはコンポーネントを実行する前に，テストの更新モードを（［**オートメーション**］＞［**更新モード**］）を実行します。
- Web ブラウザの代わりに，ブラウザ・コントロールを含むアプリケーションで作業中，チェックポイントを ActiveScreen から挿入すると，チェックポイントが失敗することがあります。

  回避策：記録中にチェックポイントを挿入します。
- VbComboBox オブジェクトを対象に ActiveScreen から「**sellength**」または「**seltext**」プロパティをチェックするチェックポイントを挿入すると，キャプチャされた値が不正確になることがあります。

  回避策：手作業で値を更新します。
- チェックポイントは，スタイル Simple Combobox の WinComboBox オブジェクトに対してはサポートされていません。
- Calendar コントロール（**WinCalendar**，**AcxCalendar**，および **SwfCalendar** テスト・オブジェクト）に対する標準チェックポイントを作成する場合，**Date** プロパティおよび **Time** プロパティは既定では設定されません。
- キャプチャされる値の形式は，システムの設定によって異なります。たとえば，日付と時間の値が異なる形式に設定されることがあります。

  回避策：テストまたはコンポーネントを記録したシステムとは別のシステムでテストまたはコンポーネントを実行しようとする場合には，両方のシステムで同じ書式設定が使われていることを確認します。

➤ データベース・チェックポイントを，作成したのとは別のマシンで実行する場合，両方のマシンに同じ ODBC ドライバがインストールされていることを確認します。

ActiveX - チェックポイントと出力値

➤ テーブル・チェックポイントは Data Bound Grid の可視の行だけをキャプチャします。

➤ ActiveScreen から ActiveX テーブルを対象としたチェックポイントを挿入するとき，ブラウザ（またはアプリケーション）にそのページ（または画面）が表示されている必要があります。そうしない場合，ActiveX テーブルのデータに欠落が生じます。

回避策：記録中に ActiveX テーブルのチェックポイントを作成します。

➤ VT_DISPATCH 型の ActiveX プロパティのチェックポイントと出力値はサポートされていません。

➤ 書き込み専用の ActiveX プロパティのチェックポイントと出力値はサポートされていません。

➤ ウィンドウレス ActiveX コントロールに対するチェックポイントまたは出力値を含んだテストで更新実行（［**オートメーション**］＞［**更新モード**］）を実行し，そのテストを再実行すると，実行セッションは失敗することがあります。これは，「windowless」という隠しプロパティがテスト・オブジェクトの記述に含まれていないからです。

回避策：問題が生じた ActiveX コントロールを再学習するか，問題が生じるすべてのウィンドウレス ActiveX コントロールに値を 1 に設定した「windowless」プロパティを追加します。

Java - チェックポイントと出力値

➤ テキスト・チェックポイントとテキスト出力値は，特定の基準を満たす Java オブジェクトについてのみ作成できます。詳細については，『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

➤ テストまたはコンポーネントを編集しているときに，Java テーブルに対して新しいテーブル・チェックポイントを作成するには，まずチェックしたいテーブルを含んだアプリケーションを開いて，そのテーブルをアプリケーションで表示する必要があります。

- テストまたはコンポーネントの編集中に JavaList または JavaTree オブジェクトに対してチェックポイントを追加した場合，そのチェックポイント内では **list_content** または **tree_content** プロパティを使用できません。

  回避策：Java リストと Java ツリーに対するチェックポイントは，記録中に作成します。

- いつも表示されているわけではないオブジェクト（コンボ・ボックスから開かれるリストやメニュー項目など）に対するチェックポイントの実行は，完全にはサポートされていません。

  回避策：一過性のオブジェクトに対するチェックポイントが必要な場合は，チェックポイントを実行する前に，そのオブジェクトが表示されていることを確認してください。たとえば，コンボ・ボックス・リストの場合は，チェックポイントを実行する前に，コンボ・ボックス・ボタンをクリックするステートメントを挿入する必要があります。

.NET Web Forms - チェックポイントと出力値

- WbfTreeView，WbfToolbar，および WbfTabStrip の各オブジェクトは，ActiveScreen では正しく認識されません。そのため，次の点に注意してください。

  - ActiveScreen でこれらのオブジェクトを対象としたチェックポイントまたは出力値ステップを挿入できません。
  - 編集モード時にキーワード・ビューまたはエキスパート・ビューでこれらのオブジェクトを対象とするチェックポイントを挿入する選択した場合，これらのオブジェクトの期待結果値は正しくないことがあります。

  回避策：記録セッション中にこれらのオブジェクトを対象とするチェックポイントまたは出力値ステップを挿入するか，または，該当するステップから ActiveScreen を取り除いてからキーワード・ビューまたはエキスパート・ビューでアプリケーションの正しい場所を開いてチェックポイントを挿入し，アプリケーションから値が取得されるようにします。

- WbfTreeView，WbfToolbar，および WbfTabStrip オブジェクトに対しては、チェックポイントはサポートされません。

- WbfCalendar オブジェクトの ActiveScreen 画像は，常にナビゲーションの前に保存されます。たとえば，**NextMonth** リンクをクリックすると，ActiveScreen は現在の月を表示します。したがって，ActiveScreen からチェックポイントを作成して，それを **Calendar.ShowNextMonth** 行の後に挿入すると，そのチェックポイントは失敗します。

回避策：次のいずれかを行います。

- ➤ カレンダ・オブジェクトに対するチェックポイントは記録時に挿入します。
- ➤ テストの編集時に，チェックポイントの期待値を編集するか，現在のステップの前にチェックポイントを挿入します。

- ➤ 記録時には，テーブル・チェックポイントは WbfUltraGrid オブジェクトについてのみサポートされます。
- ➤ **WbfUltraGrid.RowCount** メソッドと **WbfUltraGrid.ColumnCount** メソッドを使用した場合や，内部に追加のグリッド・コントロールを持つグリッドに対してテーブル・チェックポイントを実行した場合，QuickTest は最も外側のテーブルについてのみ行またはカラムを取得します。rows プロパティと RowCount メソッドがカウントするのはグループ化されていない行だけなので注意が必要です。

Oracle - チェックポイント

- ➤ いつも表示されているわけではないオブジェクト（コンボ・ボックスから開かれるリストやメニュー項目など）に対するチェックポイントの実行は，完全にはサポートされていません。

  回避策：一過性のオブジェクトに対するチェックポイントが必要な場合は，チェックポイントを実行する前に，そのオブジェクトが表示されていることを確認してください。たとえば，コンボ・ボックス・リストの場合は，チェックポイントを実行する前に，コンボ・ボックス・ボタンをクリックするステートメントを挿入する必要があります。

- ➤ 表示されていないカラムの値をテーブル・チェックポイントが表示しない場合があります。

  回避策：テーブル・チェックポイントを挿入する前に，テーブルの最後のカラムまでスクロールします。

SAP - チェックポイントとオブジェクト・スパイ

- チェックポイントで正しいオブジェクト・プロパティがキャプチャされるようにするために，チェックポイントまたは出力値を挿入する前に，サーバとの通信を引き起こすステップ（ENTER キーを押すなど）を記録することをお勧めします。
- 次のコントロールについては，オブジェクト・スパイを使用することもチェックポイントを作成することもできません。ただし，これらのコントロールに対するステップを正常に記録して実行することはできます。
  - グリッド・コントロール内のツールバー・ボタン
  - ツリーまたはテーブル・オブジェクト内の内部コントロール（テーブル・セル内のラジオ・ボタンやツリー内のチェック・ボックスなど）
- 現在アクティブになっていない SAP 画面（つまり，呼び出されたダイアログ・ボックスの背後にある画面）の中にあるオブジェクトに対するチェックポイントの作成とオブジェクト・スパイの使用はサポートされていません。ただし，［**ステータス バー メッセージを記録する**］オプションを使用すれば（［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**SAP**］＞［**ステータス バー メッセージを記録する**］），非アクティブなウィンドウに表示されたステータス・バー・メッセージに対してチェックポイントを作成することはできます。
- 古い 6.20 テストを 6.40 クライアント上で実行すると，ラジオ・ボタン，チェック・ボックス，エディット・ボックス，または通常のボタンに対するチェックポイントが，6.40 クライアントでそれらのオブジェクトの tooltip プロパティの値が変更されたせいで失敗する場合があります。
- QuickTest は，テーブル・コントロール内の行数を予測できますが，実際にチェックできるのはクライアント上に表示されているテーブル内容だけなので，正確な行数を取得することはできません。表示されていない行からのデータは，バックエンド・サーバにのみ保存されます。したがって，テーブル・コントロール・オブジェクトに対するチェックポイントを挿入または変更する場合，［行範囲の定義 / 変更］ダイアログ・ボックスで指定された行数は正確ではないことがあります。
- 大きなテーブルではテーブル・チェックポイントの挿入に少し時間がかかりますが，QuickTest がチェックポイントに必要なデータを取得している間は，SAP GUI ウィンドウ上でどのような操作も実行しないのが得策です。QuickTest がチェックポイントのための情報を取得している間に，たとえばトランザクションの状態を変更したり別のウィンドウに移動したりすると，深刻な問題が発生することがあります。

- ActiveScreen からテーブルまたはグリッドにチェックポイントを挿入する場合は，そのテーブルまたはグリッドから正しい情報を抽出するために，SAP Gui for Windows アプリケーションで実際のテーブルを開いておく必要があります。

Siebel - チェックポイントとオブジェクト・スパイ

- テストまたはコンポーネントを編集しているときに，適切なオブジェクト・タイプ（SiebList，SiebPicklist，SiebPageTabs など）についてテーブル内容チェックポイントまたは出力値を作成するには，アプリケーションでそのオブジェクトが表示される正確な画面を開く必要があります。そうでない場合，［テーブル チェックポイント］ダイアログ・ボックスまたは［テーブル出力値］ダイアログ・ボックスに［プロパティ］タブだけが表示されることになります。
- ［**合計**］行を含む SiebList オブジェクトについて作成されたチェックポイントは，［**合計**］行の更新を引き起こしたアクションが記録されていないと，実行セッション中に失敗することがあります。
- オブジェクト・スパイとチェックポイントは，展開されたカルキュレータおよびカレンダー・ポップアップ・オブジェクトを **Window("Siebel control popup")** として認識します。

ターミナル・エミュレータ - チェックポイントと出力値

- 場合によっては，TeScreen に対するビットマップ・チェックポイントが，実際のビットマップではなく期待ビットマップの中にカーソルが表示されたために（または別の理由で）失敗することがあります。

  回避策：エミュレータのカーソルを，点滅速度を遅くするか，まったく点滅しないように設定します。これにより，カーソルがビットマップ内でキャプチャされない確率が下がります。

Web サービス - チェックポイントと出力値

- 多次元配列を返す操作についてチェックポイントまたは出力値ステップを作成すると（またはこのようなステップについて更新実行を行うと），配列の 1 つの次元についてのみ XML ツリーが生成されます。

- 既存のテストを実行する場合，以下の条件に合致すると，複雑な値をチェックするチェックポイントが失敗することがあります。
  - チェックポイントが，QuickTest Professional Web Services Add-in 9.1 を使用して作成された
  - WebService テスト・オブジェクトが基づいている WSDL が RPC リテラル・エンコード方式を使用している
  - テスト・オブジェクトが .NET 2.0 WSE ツールキットを使って学習されている

  これは，この種の WSDL に対してチェックポイントを作成するための古いメカニズムでは，空の値を持つ不要な要素が作成されていたことが原因です。新しいメカニズムでは，チェックポイントについてこの要素は作成されず，実行セッション中にこの要素はキャプチャされません。

  回避策：次のいずれかを行います。

  - 前述の条件に合致するチェックポイントを含むテストの更新実行を行います（［**オートメーション**］＞［**更新モード**］）。
  - 該当するチェックポイントを QuickTest で作成し直します。
  - ［チェックポイントのプロパティ］ダイアログ・ボックスを開き，問題のある要素の横にあるチェック・ボックスの選択を解除します。

XML - チェックポイントと出力値

- 「**>**」を値として含む XML ファイルで XML チェックポイントを実行すると，エラー・メッセージが表示されることがあります。

- 新しい値のノードを XML ノードに追加すると，場合によっては新しい値が表示されないことがあります。

  回避策：［XML をテキストとして編集］ダイアログ・ボックスを閉じて再度開くと，新しい値のノードが正しく表示されます。

- ロードできなかったファイル，あるいは正しく書式化されていないファイルを対象とする XML ファイル・チェックポイントを挿入すると，エラー・メッセージが表示されることがあります。
- 大きな XML 文書に対する XML チェックポイントの作成と実行には，数分かかることがあります。

オブジェクト・リポジトリ

テストまたはコンポーネント・スクリプトに構文エラーが含まれているにもかかわらず，オブジェクト・リポジトリのテスト・オブジェクト名を変更する場合，新しい名前はテストまたはコンポーネント・スクリプト内で正しく更新されません。

回避策：［**テスト オブジェクトの名称変更時にテストとコンポーネントのステップを自動的に更新する**］チェック・ボックス（［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**一般**］ノード）をクリアし，スクリプト内で手作業で名前変更を実行する（推奨）か，構文エラーを解決してから，QuickTest で文書を閉じて再度開き，ステップ内に名前変更されたオブジェクトを表示します。

HP 画面レコーダ

- Microsoft Windows Vista で画面レコーダを使用するときに，ディスプレイ設定を「Windows クラシック」テーマにするとパフォーマンスが向上することがあります。
- Microsoft Windows Vista で Aero テーマが有効になっているとき，画面レコーダを使用する実行セッション中はテーマが Vista Basic に変更されます。実行が終了するとテーマは Aero に戻ります。

回避策：Vista のテーマを変更するか，QuickTest の［**ムービーをテスト結果へ保存**］オプション（［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**実行**］ノード＞［**画面キャプチャ**］ノード）をクリアします。

➤ QuickTest Professional がインストールされているのと同じコンピュータに Quality Center がインストールされている場合，QuickTest Professional をアンインストールするとムービー（FBR）ファイルの関連付けが削除されることがあります。HP Micro Player を使って Quality Center で管理されている不具合に関するムービーを表示できないことがあります。

回避策：次を実行して，ムービー・ファイルに HP Micro Player を関連付けし直します。

a［**スタート**］＞［**プログラム**］＞［**QuickTest Professional**］＞［**Tools**］＞［**HP Micro Player**］を選択して，HP Micro Player を開きます。

b［**ファイル**］＞［**オプション**］を選択し，HP Micro Player の［オプション］ダイアログ・ボックスを開きます。次に，ファイルを HP Micro Player に直接関連付けるために，［**このプレーヤに FBR ファイルを関連付ける**］チェック・ボックスを選択します。

➤ Windows Vista 上で画面レコーダを使ってすべての結果をテスト結果に保存しようとすると，QuickTest の実行が非常に遅くなったり，停止することがあります。

回避策：これが起きた場合は，画面レコーダを無効にします。

QuickTest Professional ドキュメント

➤［**VBScript Reference**］＞［**VBScript**］，［**VBScript Reference**］＞［**Script Runtime**］，［**VBScript Reference**］＞［**Windows Script Host**］の項のすべてのヘルプ・トピックは，Microsoft から提供されます。これらのヘルプ・ファイルは HP 社が用意したものではなく，HP 社はその内容について責任を負いません。これらのヘルプ・ファイルは，Microsoft の **Script56.chm** ヘルプ・ファイル（http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/sx7b3k7y.aspx からダウンロードできます）からそのまま抽出したものです。

VBScript Reference の見出しの下の情報には，誤り，問題点，または別の制限事項が含まれている場合があります。**VBScript Reference** の見出しの下の情報の正確さ，妥当性，信頼性，最新性，完全性，適合性，または応用性に関する HP へのお問い合わせには応じかねます。HP は，時間の空費をはじめとする **VBScript Reference** の見出しの下のヘルプ・ファイルの情報を使用した結果生じるいかなる損害についても責任を負いません。

➤ コンピュータによっては，PDF から外部の Web サイト（http://www.adobe.com/jp/ など）へのリンクが使用できないことがあります。

回避策：対象 Web サイトに手作業で移動します。

LoadRunner とビジネス・プロセス・モニタの統合

- LoadRunner の実行環境の設定は，QuickTest GUI 仮想ユーザには適用されません。必要な設定はすべて，QuickTest のテスト設定で定義する必要があります。LoadRunner スケジューラを使用すると，LoadRunner コントローラの仮想ユーザ・ウィンドウに表示される成功した反復回数が不正確になります。
- QuickTest SAP GUI 仮想ユーザは，LoadRunner によってサポートされません。
- 外部の QuickTest リソースを使用するには，QuickTest テスト内で絶対パスを使って外部リソースを定義するか，追加ファイルとして追加することによって QuickTest テスト・フォルダのロード・ジェネレータに転送します。

マルチリンガル・サポート

概要

- QuickTest Professional は Unicode に対応しており，以下の例外を除きマルチリンガル環境およびアプリケーションをサポートしています。
  - テスト，コンポーネント，アプリケーション領域，リソース（たとえば，関数ライブラリ，オブジェクト・リポジトリ，回復シナリオ）の名前およびパスは Unicode に対応していません。このため英語またはオペレーティング・システムの言語のいずれかで設定する必要があります。
  - QuickTest は，UTF-16 のサロゲート・ペアおよび複合文字を完全にはサポートしていません。QuickTest の［テスト結果］ウィンドウおよび一部のインタフェース要素は，これらの文字を正しく表示しません。
  - HP 画面レコーダは，Unicode をサポートしていません。Unicode 文字を含んだ名前を使ってテストを保存すると，そのテスト結果に画面レコーダ・ムービーが含まれている場合，そのムービーは保存されません。
  - Quality Center は Unicode に対応していません。詳細については，80 ページ「Quality Center 統合と Business Process Testing」を参照してください。

カスタマー・サポート

日本語のソフトウェア・サポート Web サイトにアクセスするには，http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport の Web サイトの右上にあるリストから［**Japan - Japanese**］を選択します。

参考情報

- アジア諸国の Windows 用には，次の Microsoft's Windows Script Technologies サイトから Microsoft Debugger をダウンロードできます。
  - **中国語版 Windows 用**：http://www.microsoft.com/china/scripting
  - **日本語版 Windows 用**：http://www.microsoft.com/japan/msdn/scripting/default.asp
  - **韓国語版 Windows 用**：http://www.microsoft.com/korea/scripting

注意事項および制限事項

本項には，QuickTest Professional 10.00 の次の領域に関するマルチリンガル関連の情報と制限事項が記載されています。

- 101 ページ「インストール」
- 101 ページ「多言語環境でのテキスト認識」
- 101 ページ「テストとコンポーネントの記録と実行」
- 103 ページ「Netscape ブラウザでのテストまたはコンポーネントの実行」
- 103 ページ「Mozilla Firefox ブラウザでのテストまたはコンポーネントの実行」
- 103 ページ「Web オブジェクトのサポート」

インストール

➤ QuickTest は，非英文字の Windows ユーザ名をサポートしていません。非英文字を含んだ（管理者権限を持っている）ユーザ名を使用して Windows にログインして QuickTest をインストールした場合，インストールは正常に完了しますが，QuickTest が開けなかったり，正しく動作しなかったりすることがあります。

多言語環境でのテキスト認識

➤ Windows Vista の 32 ビット対応または 64 ビット対応のオペレーティング・システムで CJK（中国語，日本語，韓国語）文字を対象に作業をする場合，QuickTest のテキスト認識機能（テキスト・チェックポイント，出力値，**GetVisibleText** および **GetTextLocation** の各テスト・オブジェクト・メソッド，ならびに **TextUtil.GetText** および **TextUtil.GetTextLocation** の各予約済みオブジェクト・メソッド）は限定的であり，正しく動作しないことがあります。詳細については，86 ページ「Windows ベース環境に対するテキスト認識のサポート」を参照してください。

回避策：これらの言語のフォントを 22 ポイント以上の大きさで表示させるようにします。

テストとコンポーネントの記録と実行

➤ QuickTest は，VMware オペレーティング・システム上にインストールされた場合，マルチバイト文字列入力を使用しているときに予期しない動作をすることがあります。

回避策：ディスプレイ・ドライバのハードウェア・アクセラレーションを「**なし**」に設定します。これで問題が解決しない場合は，VMware ディスプレイ・アダプタをアンインストールします。

➤ XML 操作に関連する QuickTest のユーザ・インタフェースの一部がローカライズされていないことがあります。それらをローカライズしたい場合は，該当するユーザ・インタフェース言語の .NET 2.0 Framework Language Pack をインストールします。これは，http:http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=39C8B63B-F64B-4B68-A774-B64ED0C32AE7&displaylang=ja からダウンロードできます。

- Windows XP または Windows 2003 オペレーティング・システムで，韓国語を使ってエキスパート・ビューでスクリプトを手動で編集すると，QuickTest が誤動作することがあります。

  回避策：［**コントロール パネル**］＞［**地域と言語のオプション**］＞［**言語**］タブ＞［**詳細**］＞［**詳細設定**］タブを選択し，［**詳細なテキスト サービスをオフにする**］チェック・ボックスを選択します。

  このオプションを設定した後に，コンピュータを再起動する必要があります。

- 韓国語，中国語，または日本語のオペレーティング・システムで作業する場合，実行セッション中に QuickTest がテストしているアプリケーションのフォーカスを失うことがあります。この結果，実行セッション中にデータを失う可能性があります。

  回避策：次のステップの実行前に，アプリケーションのウィンドウで **Activate** メソッドを実行し，ウィンドウのフォーカスを確実にします。次に例を示します。

  ```
  Window("Notepad").Activate
  ```

- マルチバイト文字入力での低水準の記録モードは完全にはサポートされていません。

- 記録中は，マルチライン・オブジェクトでの中国語文字入力システム（IME）の使用に制限があります。

  - 実行セッション中に IME ウィンドウでのマウス操作は一部記録されますが，再生はされません。

    回避策：記録中は IME ウィンドウでのマウスの使用は避けてください。

  - IME の［選択］ウィンドウにおける文字の選択はサポートされていません。

- 日本語，韓国語，または中国語版のオペレーティング・システムのコンピュータで **Type** メソッドを実行すると，期待どおりに動作しないことがあります。

  回避策：コンピュータに入力ロケールとして英語を追加します（コントロール・パネルの［**地域オプション**］または［**地域と言語のオプション**］を使用します）。

- マルチバイトの句読点記号や，その他マルチバイトの疑問符，マルチバイトのスペース，マルチバイトの大括弧などの特殊文字は，テスト，コンポーネント，アプリケーション領域の名前には使用できません。

Netscape ブラウザでのテストまたはコンポーネントの実行

➤ Netscape ブラウザでは，UTF8 および EUC エンコードのサイトの記録および実行はサポートされていません。

Mozilla Firefox ブラウザでのテストまたはコンポーネントの実行

➤ テストまたはコンポーネントに Mozilla Firefox ブラウザを閉じるステップが含まれていると，実行セッション中にそのステップに到達したとき，QuickTest が予期しない動作をすることがあります。

回避策：Mozilla Firefox ブラウザを閉じるステップを含めないようにします。

Web オブジェクトのサポート

➤ 編集フィールドでのオート・コンプリート操作は記録されません。

回避策：Microsoft Internet Explorer でオートコンプリート機能を無効にします。Microsoft Internet Explorer で［**ツール**］＞［**インターネット オプション**］＞［**詳細設定**］を選択して［**ブラウズ**］の下の［**インライン オートコンプリートを使用する**］オプションの選択を解除します。

User Interface Pack のインストール手順

日本語版 Windows では，Japanese User Interface Pack CD-ROM から User Interface Pack をインストールすることで，プログラムのユーザ・インタフェースおよびオンライン文書を日本語でご覧になれます。

注：User Interface Pack をインストールする前に，QuickTest Professional DVD から QuickTest Professional のプログラムをインストールしておく必要があります。

お使いのコンピュータに **User Interface Pack** をインストールするには，次の手順を実行してください。

1. CD-ROM ドライブに User Interface Pack CD を挿入します。CD-ROM ドライブがネットワーク・コンピュータにある場合は，ネットワーク・ドライブをマップして，マップされたネットワーク・パスを指定します。

2 ［QuickTest Professional Japanese User Interface Pack］セットアップ・ウィンドウが開きます。ネットワーク・ドライブからインストールする場合は，マップされた CD-ROM ドライブのルート・フォルダにある **setup. exe** をダブルクリックします。

3 ［**QuickTest Professional User Interface セットアップ**］リンクをクリックします。インストールが始まります。

4 画面に表示される指示に従います。

Japanese User Interface Pack は，QuickTest Professional プログラムのインストールの際に指定した場所に自動的にインストールされます。

これで Japanese User Interface Pack のインストールが完了します。

Quality Center アドインの Japanese User Interface Pack をインストールするには，次の手順を実行します。

注 : User Interface Pack をインストールする前に，QuickTest Professional DVD から Quality Center アドイン・プログラムをインストールしておく必要があります。

---

1 QuickTest Professional Japanese User Interface Pack のセットアップ・ウィンドウで［**Quality Center Addin User Interface セットアップ**］リンクをクリックします。インストールが始まります。

2 画面に表示される指示に従います。

Japanese User Interface Pack は，Quality Center アドイン・プログラムのインストールの際に指定した場所に自動的にインストールされます。

Functional Testing Concurrent License Server の日本語版をコンピュータにインストールするには，次の手順を実行します。

1 QuickTest Professional Japanese User Interface Pack のセットアップ・ウィンドウで［**Functional Testing License Server セットアップ（日本語版）**］リンクをクリックします。インストールが始まります。

2 画面に表示される指示に従います。

既知の問題と制限事項

➤ **QuickTest Professional** のメニューが英語で表示される場合があります。

回避策：**QuickTest Professional** を閉じてから，以下のファイルをレジストリから削除します。

HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Mercury Interactive¥QuickTest Professional

QuickTest Professional を再起動します。

➤ **QuickTest アセット比較ツール** で［**スナップショットのサンプルの表示**］コマンドを選択すると，QuickTest で選択されている要素のサンプル・イメージが表示されます。サンプル・イメージは，QuickTest の英語のユーザ・インタフェースを表示します。

➤ **Asset Upgrade Tool For QC** ツールはローカライズされていません。

➤ **Add-in Extensibility SDK** はローカライズされていません。

➤ ［**テストの設定**］ダイアログ・ボックスの［**ローカル システム モニタ**］表示枠では，選択されているシステム・モニタの詳細が表示されます。Vista オペレーティング・システムでは，システム・モニタの詳細は英語で表示されます。

➤ QuickTest Professional を起動する前に，User Interface Pack をインストールすることをお勧めします。

オブジェクト・リポジトリ・ユーティリティまたは［**検索**］ダイアログ内のメニューとツールバーが，User Interface Pack をインストールした後も英語のままになっている場合は，QuickTest Professional を閉じて，%APPDATA%¥HP¥QuickTest Professional フォルダ（標準設定では C:¥Documents and Settings¥ ＜ユーザ名＞ ¥Application Data¥HP¥QuickTest Professional）内にあるすべてのファイルを削除する必要があります。

➤ **Save and Restore Settings** ツールはローカライズされていません。

➤ **Siebel Test Express** ツールは完全にはローカライズされていません。

➤ QuickTest スクリプト・エディタ・ツールのメニューは，英語で表示される場合があります。

回避策：**QuickTest スクリプト・エディタ**・ツールを閉じます。レジストリから次のエントリを削除します。
HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Mercury Interactive¥QuickTest Script Editor¥Settings
ツールを再起動します。

サードパーティ・ライセンスの許諾

ABBYY® FineReader® Engine 8.0 © ABBYY Software LLC. 2004. ABBYY FineReader - the keenest eye in OCR.

ABBYY，FINEREADER，および ABBYY FineReader は，ABBYY Software Ltd. の登録商標または商標です。

SlickEdit® は SlickEdit Inc. の登録商標です。

==========

次は，QuickTest Professional Web Services Add-in のみを対象とします。

==========
Apache ライセンス，バージョン 2.0 のセクション 4(d) に対応する注意事項ファイル
（このケースでは Apache Axis 配布）。
==========
この製品には，Apache Software Foundation によって開発されたソフトウェアが含まれています（http://www.apache.org/）。

HP サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは，次の場所にあります。

http://support.openview.hp.com

この Web サイトでは，連絡先に関する情報や，HP ソフトウェアが提供する製品，サービス，およびサポートの詳細情報を提供します。

HP ソフトウェア・オンリアン・ソフトェア・サポートでは，お客様にセルフ・ソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な，インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。サポート・サイトを利用することで，次のようなことができるメリットがあります。

- 関心のある内容のナレッジ文書の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード

- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア・カスタマとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と申し込み

ほとんどのサポート・エリアでは，HP Passport ユーザとして登録し，ログインする必要があります。また，多くの場合，有効なサポート契約も必要です。サポートのアクセス・レベルに関する詳細は，次の URL を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ID の登録は，次の Web サイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

法的通知

© Copyright 1992 - 2009 Mercury Interactive (Israel) Ltd.

本コンピュータ・ソフトウェアには，機密データがあります。これらを所有，使用，または複製するには，HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って，商用コンピュータ ソフトウェア，コンピュータ ソフトウェアのドキュメント，および商用アイテムの技術データは，HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

HP の製品およびサービスの保証は，かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本文書の内容は，追加の保証を構成するものではありません。HP は，本文書に技術的な間違いまたは編集上の間違い，あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本文書に含まれる情報は，事前の予告なく変更されることがあります。

Adobe® は Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java™ は，Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft® および Windows® は，Microsoft Corporation の米国登録商標です。

本書に関するご意見やご要望は SW-Doc@hp.com まで電子メールにてお送りください。